

第9章 社会教育

第1節 概要

1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、様々な課題が多様化、複雑化、専門化した現代において「人づくり」「地域づくり」に取り組む社会教育の役割の重要性を鑑み、震災後10年を迎える今、数々の現代的課題を乗り越える社会教育の在り方について考え、議論した。このことを社会教育委員の立場から、提言「コロナ禍、原発事故、水害、少子化・人口減などの現代的諸課題を乗り越える社会教育の在り方」としてまとめ、進捗状況を検証してきた。(第2章 第7節に記載)

2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携・協力を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、互いの役割分担を明確に認識し、対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す「地域学校協働本部事業」を実施した。地域住民による学校支援を「学校を核とした地域づくり」に深化させていくために、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、地域と学校が双方向で連携・協働する活動の充実を図った。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するための支援を行い、教育環境の復興に努めた。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携や支援の届かない家庭へのアウトリーチ型支援等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されるこ

とが必要である。そのため、「福島県地域学校協働本部」を設置し、学校・家庭・地域の連携・協力の充実を図りながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりを推進した。また、子どもと大人が、共通の体験をとおして感動したことや共感したこと、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への想いや震災の記憶の継承などを日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七音で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動の充実や社会参加活動の促進に努めた。

6 子どもの読書活動推進

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとする中高校生によるビブリオバトル福島県大会の開催や、子どもの発達段階や新しい生活様式を踏まえた読書活動の推進を図った。

7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

(1) 事業1 ふくしまキッズパワーアップ事業

自然体験活動に加え福島ならではの多様な体験活動等とおして、心身の健康の維持向上を図るとともに、社会に貢献する意識を高め、主体的にふくしまの未来を切り拓く、たくましい子どもたちを育成するために「ふくしまキッズパワーアップ事業」を実施した。充実した自然体験活動や震災を学ぶ体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

(2) 事業2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが主体的に復興の発信や震災の教訓の継承等に寄与する社会体験活動を県内外で広く体験することで、子どもたちの「志」を育み、復興・地域創生の担い手を育成するため、「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

(3) 事業3 心のケアが必要な子ども（不登校等）を対象とした自然体験事業

不登校等で不安を抱えている子どもたちを支援するために、自然の家を活用した自然体験活動や交流活動を継続的に提供した。

第2節 社会教育一般

1 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日 時 令和3年4月9日(金)

場 所 福島県教育センター

第2回 日 時 令和4年2月4日(金)

※オンライン開催

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

2 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

県立図書館が市町村立図書館を22自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、5支援教育機関も巡回しその連携体制の強化に努めた。

(3) 災害復旧国庫補助事業

令和3年2月に発生した福島県沖を震源とする地震で被災した公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、8市町(計10施設)について災害査定等の事務を行った。

また、東日本大震災で被災した公立社会教育施設の補助金交付を未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行った。

さらに、令和4年3月に発生した福島県沖を震源とする地震で被災した公立社会教育施設について、情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

3 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和3年5月17日(月)、20日(木)

イ 会場 各勤務地(オンライン)

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 84名

オ 講師 福島復興公民館大学 実行委員長 矢吹 稔
郡山女子大学 准教授 瀬谷 真理子
斎川まちづくり協議会 事務長 佐藤 幸枝

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和3年8月10日(火)～11日(水)

イ 会場 各勤務地(オンライン)

ウ 参加対象 社会教育関係行政職員(公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員)、社会教育指導員等

エ 参加者数 40名

オ 講師 宮城県名取市那智が丘公民館長 菱沼 弘一
地域連携推進員 木下 末也
東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤
公益財団法人星総合病院 法人こども事業部
大町キッズベース 所長 吉川 和夫

4 社会教育研究集会

(1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会
一般社団法人全国社会教育委員連合

(2) 主管 南会津地区社会教育委員連絡協議会

(3) 後援 福島県教育委員会、南会津町・下郷町・檜枝岐村、只見町の各教育委員会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

5 社会教育指導員の設置

(1) 設置数 (単位:人)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
社会教育指導員数	33	17	13	53	8	13	6	143

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会（年2回）

ア 第1回

(ア) 期日 令和3年5月13日(木)

(イ) 会場 郡山市立中央公民館

(ウ) 参加者数 56名

イ 第2回

(ア) 期日 令和3年10月1日(金)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

6 社会教育主事の市町村派遣

※平成22年度より派遣していない。

7 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

(3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村等	参加者
県中	7月7日	古殿町	4名
県南	6月29日	泉崎村	17名
	6月30日	矢吹町	13名
	7月29日	中島村	12名
会津	10月13日	湯川村	15名
	12月8日	昭和村	6名
	12月20日	磐梯町	6名
南会津	7月7日	只見町	19名
相双	9月29日	富岡町	11名
	10月26日	檜葉町	6名
	11月29日	双葉町	8名

合計 11か所 参加者 117名

8 福島県公民館研究集会

(1) 期日 令和3年10月13日(水) ※オンライン開催

(2) 参加対象 公民館職員等

9 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日 令和3年6月10日(木)～8月12日(木)

ウ 受講者数 22名

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和3年7月26日(月)～8月23日(月)

b B講習 令和4年1月24日(月)～2月21日(月)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 1名

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
公民館職員専門講座	6月3日(木)～8日(火)	0

10 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.342	社会教育	A4	10	Web掲載

第3節 地域コミュニティの再生

1 地域学校協働本部事業

(1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校と地域が相互に連携・協力を進めるとともに、互いの役割を明確に認識し対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す。

(2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回 令和3年9月 ※書面開催

第2回 令和3年12月 ※資料送付・動画配信による開催

第3回 令和4年2月 ※書面開催

イ 推進委員会の開催

第1回 令和3年9月 ※書面開催

第2回 令和4年2月 ※書面開催

ウ 地域学校協働研修会の実施

期日：令和4年1月28日(金)

オンライン開催 46名参加

講演：宮城教育大学学長付特任教授 野澤 令昭

エ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

期日：令和4年2月2日(水)

オンライン開催 89名参加

実践発表：国見町、田村市、西会津町、広野町

基調講演：「地域と共につくる学びと生きがいの

ステーションづくり」

公益財団法人星総合病院

法人子ども事業部

大町キッズベース 所長 吉川 和夫

(3) 市町村事業

23の市町村(国見町、二本松市、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、西郷村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、南会津町、下郷町、只見町)に21の地域学校協働本部が設置され実施した。

2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集
資料収集件数 14,646 件（累計）
- イ 被災地区図書館支援事業
移動図書館（あづま号）による資料貸出
稼働 19 回 貸出 3,150 冊
（開催場所 飯館村、楡葉町ほか 計 22 か所）

第 4 節 家庭教育

1 地域でつながる家庭教育応援事業

(1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進するとともに、地域の実情に即して、学校や地域、行政機関や福祉機関と連携しながら、子育てや家庭教育を応援する「家庭教育支援チーム」の設置を促進した。

(2) 家庭教育応援プロジェクト

- ア 福島県地域家庭教育推進協議会
第 1 回 令和 3 年 6 月 ※書面開催
第 2 回 令和 4 年 2 月 ※書面開催
- イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議
各教育事務所域内（7 地区）
4 地区 2 回 実施（6 月～12 月）
1 地区 1 回 実施（6 月）
1 回 書面開催（9 月～2 月）
2 地区 2 回 書面開催（6 月～1 月）
- ウ 家庭教育応援企業推進活動
連携企業数

県北地区	2 社	(191 社)
県中地区	7 社	(253 社)
県南地区	0 社	(73 社)
会津地区	8 社	(155 社)
南会津地区	0 社	(66 社)
相双地区	0 社	(10 社)
いわき地区	138 社	(270 社)
計	155 社	(1,018 社) ※()累計
- エ 親子の学び応援講座

【県北地区】

- ・福島市小中学校 P T A 連合会 21 名
令和 3 年 11 月 27 日（土）
「子どもたちのネットメディアの利用における現状と危険性について」
医療創生大学心理学部 教授 中尾 剛
- ・福島市小中学校 P T A 連合会 74 名
令和 4 年 1 月 29 日（土）
「『家庭教育は子どもの「生きる力」を育む原点』～メディア社会だからこそ大切にしたい親子のコミュニケーション～」
親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

【県中地区】

- ・須賀川市立長沼幼稚園 P T A ほか 70 名
令和 3 年 11 月 5 日（金）
「おやこでいっしょにリトミック」
N P O 法人福島県音楽療法士協会理事長 認定療法士 齋藤 由香
国際ビジネス公務員大学校こども保育分野学科長 國分 千恵
- ・田村市立常葉小学校・常葉中学校 P T A 177 名
令和 3 年 12 月 1 日（水）
「ネット、ゲームとの上手なつきあい方」
前福島県立矢吹病院副院長 けやき心の発達診療所 所長 角田 智哉

【県南地区】

- ・棚倉町立高野小学校 P T A 79 名
令和 3 年 7 月 9 日（金）
「ネット、ゲームとの上手なつきあい方」
前福島県立矢吹病院副院長 けやき心の発達診療所 所長 角田 智哉
- ・矢吹町立三神小学校 P T A 60 名
令和 3 年 11 月 19 日（金）
「ゲーム依存症から考えるメディアコントロール」
前福島県立矢吹病院副院長 けやき心の発達診療所 所長 角田 智哉
- ・塙町立塙小学校父母と教師の会 173 名
令和 3 年 11 月 30 日（火）
「『親業』-数値化できない力を育む～大切なのは、家庭内でのコミュニケーション」
親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

【会津地区】

- ・柳津町立会津柳津学園中学校 P T A 112 名
令和 3 年 7 月 3 日（土）
「ソーシャルメディア・スマートフォン利用の光と影」
会津大学 情報セキュリティ学講座 上級准教授 中村 章人
- ・会津若松市立第六中学校 P T A 110 名
令和 3 年 7 月 13 日（火）
「スマホ・ネットと上手につきあうために」

会津大学短期学部 産業情報学科 教授 中澤 真
【南会津地区】
 ・南会津町立田島第二小学校 P T A 80名
 令和3年6月25日(金)
 「メディアコントロール
 ～スマホ・ネットと上手につきあうために～」
 会津大学短期学部 産業情報学科 教授 中澤 真

【相双地区】
 ・南相馬市立大甕小学校 P T A 79名
 令和3年6月25日(金)
 「子育てに生かすアンガーマネジメント」
 特定非営利活動法人「きぼう」副理事長 新妻 直恵

【いわき地区】
 ・いわき市立久之浜第一小学校 P T A 120名
 令和3年7月8日(木)
 「情報モラルについて考えよう！
 ～インターネットの危険から身を守るために～」
 医療創生大学心理学部 教授 中尾 剛
 ・いわき市立内郷第三中学校 P T A ほか 39名
 令和3年11月26日(金)
 「ネット社会に潜む危険と、子どもたちを守るための保護者の関わり」
 いわきメディア指導員 柳沼 広美

(3) 家庭教育応援リーダー育成事業

ア 家庭教育支援者全県研修
 令和3年9月13日(月)～30日(木)
 オンデマンド研修(You Tube)
 講演
 「思春期危機を乗り越えるには～折れない心の育て方～」
 針生ヶ丘病院 公認心理師・精神保健福祉士 大森 洋亮
 講義① 愛着障がい
 「愛着障がいの理解と支援
 ～子どもをつなぐ心の絆づくり～」
 和歌山大学教育学部教授 米澤 好史
 講義② メディア
 「ネット・ゲームとの上手なつきあい方」
 前福島県立矢吹病院副院長 けやき心の発達診療所
 所長 角田 智哉
 講義③ 発達障がい
 「特別な支援が必要な子ども達への支援の仕方」
 福島県特別支援教育センター主任指導主事 加藤 賢一

イ 家庭教育支援者地区別研修 6地区 206名

【県北地区】
 令和3年11月18日(木) 福島県青少年会館 28名
 講義「みんなで考えよう、スマートフォン
 ～スマホトラブル、うちの子だけは大丈夫？」
 N P O 法人企業教育研究会 市野 敬介
 演習「メディア社会における親子のコミュニケーションについて」
 N P O 法人企業教育研究会 市野 敬介

【県中地区】

令和3年12月4日(土) 郡山市労働福祉会館 38名
 活動紹介「kokoyori」の取組について
 kokoyori代表 熊田 ひろみ
 講話「ペアレント・トレーニング」を学ぶ
 郡山市家庭教育を支援する会 圓谷 円
 講演「インターネット・スマホ 子どもにどう使わせる？」
 会津大学短期大学部 産業情報学科 経営情報コース
 教授 中澤 真

【県南地区】
 令和4年2月25日(金) 白河合同庁舎 20名
 オンライン・サテライト開催
 講演「ペアレント・トレーニング」を学ぶ
 郡山市教育委員会生涯学習課社会教育指導員
 圓谷 円

【会津地区】
 令和3年11月18日(木) 会津若松市北会津公民館 55名
 講義・演習
 「子どもが学校に行けなくなった時の支援
 ～家族療法を支援に活かす～」
 公認心理師 新潟県新潟市スクールカウンセラー
 佐藤 真奈美

【南会津地区】
 令和3年11月13日(土) 下郷ふれあいセンター 53名
 親子で体験(コース選択制)
 コース①「世界に一つだけの『鳥笛』をつくろう」
 株式会社マストロ・ジェッツペット 渡部 安衣
 コース②「パラリンピック種目『ボッチャ』に挑戦しよう」
 南会津町社会教育指導員 向後 集平
 講演「12年目を迎えた“もも”活動
 ～過去と未来の分岐点～」
 喜多方市家庭教育支援チームもも代表 幸田 久美子

【相双地区】
 令和3年11月6日(土) 南相馬市鹿島農村環境改善
 センター(万葉ふれあいセンター) 12名
 講義・演習「脳神経学からアプローチする子育て」
 健康生活向上コーディネーター
 KO-JIYA代表 大内 克泰

【いわき地区】
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

第5節 青少年教育

1 福島県地域学校協働本部

(1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

(2) 内容

ア 県本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（政策監）
- ・副本部長（教育総務課長）
- ・事務局長（社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

(イ) 内容

- ・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等（以下「ボランティア」という。）の登録促進に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関する事
- ・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

イ 地域本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（教育事務所長）
- ・副本部長（次長兼総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関する事
- ・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事
- ・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整に関する事
- ・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関する事

ウ 市町村本部の設置

(ア) 構成

- ・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。
- ・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

(イ) 内容

- ・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関する事
- ・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関する事
- ・域内各学校との連携に関する事

エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

(ア) 構成

- ・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。
- ・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

(イ) 内容

- ・学校と地域が連携した取組の調整に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関する事

ること

- ・学校と地域が連携した取組の充実に関する事
- ・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関する事

オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理

学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び人材の登録を行う。

2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

(1) 目的

日常生活や自然・社会体験活動などの共通体験を通して感じた思いや願い、震災を乗り越えてきた体験や、ふくしまへの想いなどについて、子どもと大人あるいは子ども同士のペアで、十七音で綴った作品を県内外から募集し、広く発信することで、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

(2) 内容

ア 応募期間 令和3年6月14日(月)～8月31日(火)

イ 応募総数 42,953組

ウ 第一次審査 令和3年9月16日(木)～29日(水)

エ 第二次審査 令和3年10月20日(水)自治会館

オ 最終審査 令和3年11月4日(木)自治会館

カ 表彰式 令和3年12月11日(土)
キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)

キ 入賞数 絆部門・ふるさと部門
最優秀賞各5組、優秀賞各5組、
佳作各10組

ク ワークショップ

(ア) 福島市開催 令和3年7月14日(水)

福島市立福島第一小学校

講師 一般社団法人HAMADOORI13 代表理事 吉田 学
参加者 20名

(イ) 福島市開催 令和3年12月11日(土)

キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)

講師 新地町教育委員会教育長 佐々木 孝司
参加者 41名

(3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、社会教育課 Twitter に掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、全応募者、後援団体等への作品集配布や社会教育課 Twitter、県庁パネル展示等により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

第7節 子どもの読書活動推進

1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

(1) 福島県子ども読書活動推進会議

【第1回】令和3年6月23日(水)

県立図書館 3階 第1研修室

【第2回】令和4年2月8日(火) (書面開催)

ア 目的

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

氏名	職業等	区分
高野 保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
佐藤 千花	福島県高等学校PTA連合会副会長	社会教育関係者
古川 次男	福島県学校図書館協議会長	学校図書館関係者
籠田まき子	小野町ふるさと文化の館副主幹	公立図書館等関係者
武田 繁子	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
藍原恵美子	NPO法人夢ネットワーク理事長	読書活動に係るボランティア団体関係者
桑原 真希	平田村立ひらたこども園保育教諭	保育所・幼稚園等の関係者

(2) 読書活動支援者育成事業

【県北地区】 令和3年12月5日(日)

自治会館 受講者 36名

【県中地区】 令和3年6月24日(木)

郡山市労働福祉会館 受講者 40名

【県南地区】 令和3年12月1日(水)

矢吹町複合施設 KOKOTTO 受講者 42名

【会津地区】 令和3年10月20日(水)

じげんプラザ(会津美里町) 受講者 52名

【南会津地区】 令和3年8月5日(木)

御蔵入交流館(南会津町) 受講者 50名

【相双地区】 令和3年9月3日(金)

環境放射線センター(三春町) 受講者 28名

【いわき地区】 令和3年7月2日(金)

いわき市文化センター 受講者 60名

(3) 子供の読書活動の推進委託事業

「世界と未来を変える読書の力

～新しい生活様式と読書～

期日 令和3年12月19日(日)

場所 とうほう・みんなの文化センター 受講者 59名

内容

乳幼児期における読書活動推進のために

講演 「新しい生活様式と家読・読み聞かせについて」

平田村立ひらたこども園保育教諭 桑原 真希

小学校期における読書活動推進のために

講義・演習 「新しい生活様式とブックトークについて」

本宮市立しらさわ夢図書館副館長兼専門司書

柳沼 志津子

中高校期における読書活動推進のために

講義・演習 「新しい生活様式とビブリオバトルについて」

福島県立小野高校教諭 古川 真

元小野町地域おこし協力隊 宍戸 佳織里

パネルディスカッション

「新しい生活様式とこれからの読書」

コーディネーター

福島大学名誉教授 高野 保夫

パネリスト 福島県立図書館専門司書 鈴木 史徳

平田村立ひらたこども園保育教諭 桑原 真希

元小野町地域おこし協力隊 宍戸 佳織里

(4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

期日 令和3年11月20日(土)

場所 とうほう・みんなの文化センター

参加者 発表者 22名(中学生 17名、高校生 5名)

観戦者 162名

【中学生の部】

優勝 西会津町立西会津中学校 折笠 遙南

「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」

準優勝 いわき市立錦中学校 榎本 明希

「スガリさんの感想文はいつだって斜め上」

優秀賞 白河市立表郷中学校 岡部 結菜

「神のダイスを見上げて」

玉川村立玉川中学校 有賀 きらり

「夢をかなえるゾウ4 ガネーシャと死神」

【高校生の部】

優勝 福島県立会津農林高等学校 尾崎 海斗

「左手一本のシュート」

準優勝 福島県立磐城桜が丘高等学校 三戸 愛結

「麦本三步の好きなもの」

優秀賞 福島県立田村高等学校 会田 楓輝

「あした死ぬかもよ？」

福島県立白河高等学校 佐藤 光翼

「優しい死神の飼い方」

福島県立福島明成高等学校 二瓶 愛華

「妻を殺してもバレない確率」

第8節 ユネスコ活動

1 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	八木沼 智恵子	須賀川市教委生涯学習スポーツ課内 須賀川市八幡町135	河村 朝子	S46.9.13
いわきユネスコ協会	佐久間 静子	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	沢 宏一	S51.10.23
郡山ユネスコ協会	倉又 晴男	学校法人尚志学園高等学校内 郡山市大槻町字垣ノ腰2	橋本 裕	S53.1.24
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路7-1	近内 友明	S53.11.19
福島ユネスコ協会	黒澤 宜昭	福島市中央学習センター内 福島市松木町1-7	宗川 孝	S55.7.19
会津ユネスコ協会	吉田 幸代	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55.11.16
郡山次世代ユネスコ協会	大本 研二	学校法人こおりやま東都学園本部気付 郡山市図景2-9-3	鈴木 秀太郎	H28.1.16
福島県ユネスコ連絡協議会	吉田 幸代	福島市笹木野字中西表60-6 近野元洋宅	近野 元洋	S56.12.5

2 福島県ユネスコ活動研修会

令和3年9月28日(火) いわき市 中央台公民館

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

1 ふくしまキッズパワーアップ事業

(1) 内容

対象者 福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

対象期間 令和3年4月9日(金)～令和4年2月28日(月)

実施内容 ア 小中学生を対象とした宿泊を伴う自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

イ 社会教育団体が行う小中学生を対象とした長期宿泊型(3泊4日以上)の自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への補助

補助について ①活動費、②交通費、③宿泊費について、補助対象経費の80%以内か100万円の低い方

(2) 実績

ア 小・中学校自然体験活動支援事業

件数：122件 参加者：6,389名 (うち 子ども5,782名)

イ 社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：0件 参加者：0名 (うち 子ども0名)

2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

(1) 内容

事業1 元気を届ける交流・体験事業

事業2 今を知り思いを伝える事業

(2) 実績

応募団体 24団体

採択団体 23団体

補助金額 17,299千円

3 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

(1) 内容

対象者 県内の不登校等で不安を抱えている子ども及び引率者等

対象期間 令和3年5月11日(火)～令和4年2月28日(月)

実施内容 県内3自然の家(郡山・会津・いわき)を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然体験活動や交流体験活動等を実施する。

(2) 実績

○郡山自然の家

実施日	主な内容	参加者数
6月4日(金)	自然散策、室内サーキット等	児童生徒、保護者 11名
10月22日(金)	野外炊飯、フィールドアスレチック等	児童生徒、保護者 20名
11月20日(土)	お菓子作り体験等	児童生徒、保護者 16名
12月12日(日)	お菓子の家づくり活動等	児童生徒、保護者 34名

○会津自然の家

実施日	主な内容	参加者数
6月9日(水)	魚釣り、アスレチック	児童、保護者 9名
6月11日(金)	魚釣り、ボルダリング、カヌー	児童、保護者 11名
6月29日(火)	アスレチック、野外炊飯等	児童、保護者 13名
10月31日(日)	森の散策、キーホルダー作り	児童、保護者 10名
11月13日(土)	ボッチャ、手作りパイ作り	児童、保護者 10名
11月27日(土)	蕎麦打ち体験、落ち葉スタンプTシャツ作り	児童、保護者 10名

○いわき海浜自然の家

実施日	主な内容	参加者数
7月9日(金)	磯遊び、ネイチャーゲーム、クラフト活動等	児童生徒、スタッフ 15名
10月15日(金)	ハイキング活動等	児童生徒、スタッフ 17名

第10節 公民館等社会教育施設

1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

ア 県立

名称	所在地	電話番号	設置者
福島県立図書館	福島市森合字西養山1	024-535-3220	福島県

イ 市町村立

名称	所在地	電話番号	設置者
福島市立図書館	福島市松木町1-1	024-531-6551	福島市
福島市西口ライブラリー	福島市三河南町1-20	024-525-4023	福島市
福島市子どもライブラリー	福島市早稲町1-1(こむこむ内)	024-526-4200	福島市
伊達市立図書館	伊達市箱崎字川端7	024-551-2132	伊達市
二本松市立二本松図書館	二本松市本町1丁目102番地	0243-23-5082	二本松市
二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町242番地	0243-55-3255	二本松市
しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎500	0243-44-2112	本宮市
郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目5-25	024-923-6601	郡山市
郡山市中央図書館田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼40-3	024-955-3842	郡山市
郡山市中央図書館喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原1	024-959-2205	郡山市
郡山市中央図書館緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目1-21	024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書館日和田分館	郡山市日和田町字小堰23-4	024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書館三穂田分館	郡山市三穂田町字東屋敷6	024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書館中田分館	郡山市中田町下枝字大平358	024-973-2951	郡山市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
郡山市中央図書館西田分館	郡山市西田町三丁目桜内 259	024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書館大槻分館	郡山市大槻町字中前田 56	024-951-1512	郡山市
郡山市中央図書館熱海分館	郡山市熱海町熱海二丁目 15-1	024-984-2679	郡山市
郡山市中央図書館湖南分館	郡山市湖南町福良字家老 9390-4	024-983-2543	郡山市
郡山市中央図書館富田分館	郡山市東三丁目 84 番地	024-951-0260	郡山市
郡山市中央図書館逢瀬分館	郡山市逢瀬町多田野字南原 3 番地	024-957-2417	郡山市
郡山市中央図書館片平分館	郡山市片平町字南 7-2	024-957-5730	郡山市
郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘 1-5	024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目 38	024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎 181-1	024-921-0030	郡山市
須賀川市中央図書館	須賀川市中町 4-1	0248-75-3309	須賀川市
須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町 85	0248-67-2138	須賀川市
須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前 22	0248-65-3549	須賀川市
鏡石町図書館	鏡石町旭町 440-6	0248-62-1288	鏡石町
天栄村生涯学習センター内図書室	天栄村大字下松本字原畑 66	0248-82-2504	天栄村
石川町立図書館	石川町字関根 165	0247-26-9136	石川町
浅川町立あさかわ図書館	浅川町大字箕輪字山敷田 75	0247-36-2900	浅川町
古殿町図書館	古殿町大字松川字横川 235	0247-53-2305	古殿町
三春町民図書館	三春町字大町 12-1	0247-62-3375	三春町
小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市図書館	田村市船引町船引字扇田 19	0247-82-1001	田村市
田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町 48-1	0247-78-2001	田村市
田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池 87 番地 5	0247-79-2161	田村市
田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏 1	0247-77-2013	田村市
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町 33-4	0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路 96-5	0248-23-3250	白河市
白河市立表郷図書館	白河市表郷金山字長者久保 2	0248-32-4784	白河市
白河市立東図書館	白河市東釜字字狐内 47	0248-34-1130	白河市
白河市立大信図書館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町本町 165	0248-44-3595	矢吹町
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館 24-9	0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字棚倉字森町 21-1	0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町 68-6	0247-43-0808	塙町
矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-2	0247-29-1150	鮫川村
会津若松市立会津図書館	会津若松市栄町 3-50	0242-22-4711	会津若松市
猪苗代町図書館歴史情報館	猪苗代町字古城町 132-2	0242-23-7855	猪苗代町
喜多方市立図書館	喜多方市字柳原 7503-1	0241-22-1855	喜多方市
会津美里町図書館	会津美里町字新布才地 1	0242-54-2911	会津美里町
南会津町図書館	南会津町田島字宮本東 22	0241-62-5522	南会津町
相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町 65-16	0244-37-2630	相馬市
新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 40-1	0244-62-5031	新地町
南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1	0244-23-7789	南相馬市
南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1	0244-46-5116	南相馬市
南相馬市立小高図書館	南相馬市小高区本町二丁目 89-1	0244-44-3049	南相馬市
飯館村交流センター	飯館村草野字大師堂 17	0244-42-0072	飯館村
浪江町図書館(休館中)	浪江町権現堂字矢沢町 6-1	0240-34-3941	浪江町
葛尾村村民会館図書室	葛尾村大字落合字落合 16	0240-29-2008	葛尾村
双葉町図書館(休館中)	双葉町大字長塚字鬼木 1	0240-33-4214	双葉町

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
大熊町図書館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669-3	0240-32-3011	大熊町
富岡町図書館	富岡町大字本岡字王塚 622-1	0240-21-3665	富岡町
いわき市立いわき総合図書館	いわき市平字田町 120	0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下 40-1	0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜愛宕上 7-2	0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田 1-1	0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町一丁目 2-2	0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一丁目 50	0246-32-5980	いわき市

ウ 法人

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
クローバー子供図書館	郡山市開成 6 丁目 346-1	024-932-2118	公益財団法人

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録年月日
福島県立美術館	福島市森合字西養山 1	024-531-5511	福島県	美術博物館	59.7.16
福島県立博物館	会津若松市城東町 1-25	0242-28-6000	福島県	総合博物館	61.11.28
須賀川市立博物館	須賀川市池上町 6	0248-75-3239	須賀川市	歴史博物館	46.7.10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町 4-4	0246-25-1111	いわき市	美術博物館	59.9.3
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地 130-2	024-956-2200	郡山市	美術博物館	平 5.1.20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口 194	0244-23-6421	南相馬市	総合博物館	平 8.5.9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田 81	0242-85-7867	(公財)野口英世記念会	歴史博物館	29.10.21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1	0242-65-2600	会津民俗館	歴史博物館	55.10.3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33	0242-24-9170	(一財)白虎隊記念館	歴史博物館	63.6.30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 3692-20	0241-66-3077	南会津町	歴史博物館	平 21.6.16
諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23	0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館	美術博物館	平 11.8.17
藤田記念博物館	白河市二番町 46-1	0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会	美術博物館	54.9.1
CCGA 現代グラフィックアートセンター	須賀川市塩田宮田 1	0248-79-4811	(公財)DNP 文化振興財団	美術博物館	平 25.12.25

イ 博物館相当施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	指定年月日
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 187	0241-42-3630	柳津町	美術博物館	平 11.9.28
龍が城美術館（休館中）	いわき市平字旧城跡 27-1	0246-22-1601	(一財)白龍会	美術博物館	30.2.10
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内 1	0242-28-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	56.11.25
安積歴史博物館	郡山市開成 5-25-63	024-938-0778	(公財)安積歴史博物館	歴史博物館	59.9.8
磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36	0241-32-2888	(株)ゴールドハウス目黒	科学博物館	平 5.7.1
會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山 10 番地	0242-75-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	平 12.11.28
はじまりの美術館	猪苗代町新町 4873	0242-62-3454	(福)安積愛育園	美術博物館	平 28.12.6

ウ 類似施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町 50	0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段 86	0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町 5-54	024-534-9195	福島県
ふれあい歴史館（福島市資料展示室）	福島市松山町 39-1	024-563-7858	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内	024-593-5249	福島市
福島市古閑裕而記念館	福島市入江町 1-1	024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町 11-36	024-523-1201	福島市
宮畑遺跡史跡公園体験学習施設	福島市岡島字宮田 78	024-573-0015	福島市
羽山の森美術館	川俣町大字西福沢字山枘内 20	024-566-3367	川俣町

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町 10	024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇 265	024-575-1615	伊達市
霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1	024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町 1-102	0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町 36	0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町 2-3-1	0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵 183	0243-48-2569	大玉村
本宮市立歴史民俗資料館	本宮市字南町裡 130	0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎 494-44	0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成 3-3-7	024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山 1-8-3	024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町 3-5	024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前 2-11-1 ビッグアイ 20F~24F	024-936-0201	郡山市
鏡石町歴史民俗資料館	鏡石町成田 343	0248-62-4323	鏡石町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石 1-2	0248-81-1030	天栄村
石川町立歴史民俗資料館	石川町字高田 200-2	0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地 144-6	0247-36-2134	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下 287	0247-36-4129	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷 5	0247-62-5263	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町 30	0247-62-7053	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前 196 番地	0247-81-1215	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市中田 7-1	0248-27-2310	白河市
小峰城歴史館(旧 白河集古苑)	白河市郭内 1-73	0248-24-5050	白河市
中山義秀記念文学館(義秀展示館)	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
西郷村歴史民俗資料館	西郷村大字小田倉字上野原 463	0248-25-0959	西郷村
矢吹町ふるさとの森芸術村	矢吹町大池 243-2	0248-42-4506	矢吹町
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館 24-9	0248-53-4777	泉崎村
塙町立あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元 86-2	0247-42-2510	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村歴史民俗資料館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 128-4	0247-49-3106	鮫川村
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町 8-1	0242-27-2472	会津若松市
若松城天守閣郷土博物館	会津若松市追手町 1-1	0242-27-4005	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町 1-1	0242-27-4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町 2-8-8	0242-22-8686	会津若松市
会津若松市歴史資料センター	会津若松市城東町 2-3	0242-27-2705	会津若松市
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸 3447-4	0242-72-1135	猪苗代町
喜多方市美術館	喜多方市字押切 2-2	0241-23-0404	喜多方市
喜多方市カイギュウランドたかさと	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163	0241-44-2024	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下 842	0242-84-1233	会津坂下町
ほっと i n やないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙 151-1	0241-41-1077	柳津町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原 1	0241-58-1677	昭和村
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲 4681	0241-62-3848	南会津町
奥会津博物館南郷館	南会津町界字川久保 552	0241-73-2829	南会津町
奥会津博物館館岩館	南会津町松戸原 55	0241-78-2110	南会津町
奥会津博物館伊南館	南会津町青柳字久川 24	0241-76-2071	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原 887-1	0241-75-2342	檜枝岐村
相馬市歴史資料収蔵館	相馬市中村字北町 51-1	0244-37-2191	相馬市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
埴谷・島尾記念文学資料館	南相馬市小高区本町2丁目89-1	0244-66-1011	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合16	0240-29-2008	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館（休館中）	双葉町大字新山字本町27-1	0240-33-4763	双葉町
大熊町民俗伝承館（休館中）	大熊町大字下野上字大野669-3	0240-32-3011	大熊町
富岡町歴史民俗資料館	富岡町大字本岡字王塚622-1	0240-22-2626	富岡町
檜葉町歴史資料館	檜葉町大字北田字鐘突堂5-4	0240-25-2492	檜葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田3-1	0246-42-3155	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢6-1	0246-65-6166	いわき市
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房147-2	0246-82-4561	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐藤原町手這50-1	0246-43-0391	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道1-39	0246-83-0005	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内6-1	0246-83-2901	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野14-16	0246-29-2230	いわき市
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚3-183	024-593-0639	公益財団法人
桑折町種徳美術館	桑折町字陣屋12	024-582-5507	桑折町
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内41	024-971-3900	私人
ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台100	0248-89-1120	公益財団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市字寺町4761	0241-22-2233	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹7294-4	0241-24-3576	私人

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

ア 県設置

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山46	024-957-2111	福島県
福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1	0242-83-2480	福島県
福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山53	0246-32-7700	福島県

イ 教育施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火6-1	0248-36-2331	独立行政法人
国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原7136-1	0242-62-2530	独立行政法人
市町村（条例）設置	※13施設（別掲）		
他県設置等	※3施設（別掲）		

《市町村（条例）設置13施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋53-5	024-546-8311	公益財団法人
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作1	024-597-2951	福島市
福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館	福島市早稲町1-1	024-524-3131	福島市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒82	024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西112	024-982-2115	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田音森20	0248-79-2187	須賀川市
石川町勤労青少年ホーム	石川町字当町418-1	0247-26-2566	石川町
矢祭山友情の森	矢祭町大字山下字下河原1-1	0247-46-2162	矢祭町
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町14-52	0242-26-6662	会津若松市
会津若松市少年の家	会津若松市城東町15-62	0242-39-1304	会津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田3119-1	0241-22-1403	喜多方市
喜多方市勤労青少年体育センター	喜多方市舞台田3119-1	0241-22-1403	喜多方市
びわ沢原森林公園（休館中）	猪苗代町字琵琶沢原7095	0242-62-3291	猪苗代町

《他県設置等3施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
一般財団法人小野田自然塾	東白川郡高町大字片貝字長久木先 384	022-281-8228	一般財団法人
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山 2847-1	0241-78-2311	さいたま市
ばんだいわれあいぴあ	北塩原村松原字南黄連沢山 1157-336	0241-33-2567	公益財団法人

2 文化施設の整備充実

(1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第11節 福島県立図書館

1 概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成30年3月に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第3次）』（平成30年度～令和2年度）の基本理念と4つの目標に基づき、引き続き令和3年度も読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、令和2年2月に策定された「第四次福島県子ども読書活動推進計画」（令和2年度から概ね5年間）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んだ。

なお、令和3年度は、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震による被害により同年3月17日（木）～23日（水）を臨時休館とした。

(1) 図書館協議会

ア 第一回

開催日 令和3年9月30日（木） 於：県立図書館
議題等

- ・令和3年度図書館利用実績について
- ・令和3年2月に発生した地震による被害状況と復旧計画について
- ・「福島県図書館アクションプラン（第4次）」の策定について

イ 第二回

開催日 令和4年2月24日（木） 書面開催
議題等

- ・「福島県図書館アクションプラン（第4次）」の策定について

図書館協議会委員名（令和4年3月31日現在）

[任期：令和3年10月21日～令和5年10月20日]

区分	氏 名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	◎井實 充史	福島大学（人間発達文化学類教授）
	三瓶 千香子	桜の聖母短期大学（キャリア教養学科教授 生涯学習センター長・地域連携センター長）
	角田 守良	株式会社福島民報社 （編集局長兼文化部長）
	菅野 隆一	福島民友新聞株式会社 （論説委員会副委員長）
	岩本 夏海	公募
	高橋 正人	公募
家庭教育	高橋 明子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会（喜多方市教育委員会教育委員）
社会教育	目黒 美千代	福島県公共図書館協会 （新地町図書館管理係長兼司書）
学校教育関係	○橋本 忠広	福島県高等学校長協会 （福島県立須賀川桐陽高等学校長）
	星野 亜紀	福島県中学校長会 （白河市立大信中学校長）

◎会長 ○副会長

「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」

平成30年度～令和2年度 ※令和3年度も継続

1 基本理念

「『知の拠点』として、全ての県民の教育と文化の振興を図り、ふくしまの未来をひらきます。」

福島県立図書館は、情報（資料）の提供（貸出・閲覧）やレファレンス等、県民への直接的サービスに努める他、社会（地域）や行政の課題解決に応えるため、「知の拠点」としての責務を果たします。

また、市町村立図書館（未設置自治体にあつては公民館図書室等）の円滑な活動を支援するため、情報（資料）を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。そして、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子どもたちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよう支援するなど、ふくしまの復興の一翼を文化面から担います。

2 福島県立図書館が目指す4つの目標

「基本理念」の実現に向けて定めた、「福島県立図書館が目指す4つの目標」

(1) 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料(情報)を収集し、保存し、提供することで、県民の皆さんに役立つ図書館を目指すとともに、全ての人が等しく利用できるサービス体制を目指します。

(2) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う、今とこれからの子どもたちのために、資料(情報)を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

(3) 市町村(図書館・公民館等)を支えるための図書館

県内市町村図書館等に対する協力・支援を充実させることにより、市町村の図書館活動を支えるとともに、ネットワーク体制を推進し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

(4) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の情報を収集し、保存し、発信することで、全ての人が、いつでも、どこからでも、「ふくしま」を知ることができる「拠点」となることを目指します。

注) 第4次アクションプランは令和2年度末策定予定であったが、福島県総合計画及び第7次福島県総合教育計画の策定時期の延長に伴い、令和3年度末の策定となった。

2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン(第3次)」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

(1) 図書館資料の収集

ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

イ 地域資料の収集

福島県に関する資料については新刊書及び古書を購入した。県人著作については新刊書及び旧刊図書の遡及購入により、充実を図った。非売品の資料については出版した個人・団体・機関等への寄贈依頼や、寄贈を呼びかけるチラシを常時館内掲示し県立図書館ホームページにも「図書寄贈のお願い」をトップに表示するなど広報に努めた。

行政資料は各部局へ寄贈依頼を通知したほか、庁内

Webで周知を行った。県内公共図書館、公民館にも行政資料の寄贈について協力を呼びかけた。また、「福島県立図書館『福島県行政資料コーナー』のご紹介」のチラシを改訂し、館内配布した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料についても、新聞等での出版情報収集に努めた。

ウ 地域視聴覚資料の収集

県内で撮影されたものや震災関連の映像資料を収集した。また、保存価値の高い地元新聞のCD-ROM等の資料を継続して収集した。

エ 児童資料・研究資料の収集

(ア) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

(イ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や県内図書館の求めに対応できる資料を幅広く継続収集した。

令和3年度より新たに「みんゆうデジタルアーカイブ」(福島民友新聞社のデータベース)を導入し、利用者に提供を開始した。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、子どもたちの多様な好奇心に応えることができる児童書や話題性の高い文芸書、生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況

(単位：種)

区分	購入	寄贈・他	計
新聞	25	44	69
雑誌	234	732	966
官報等	3	0	3
合計	262	776	1,038

資料受入状況 (単位：冊)

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	5,587	2,105	7,692
地 域・行 政 資 料	1,328	3,706	5,034
児 童 資 料	2,100	316	2,416
児童図書研究資料	347	896	1,243
市町村支援資料	1,258	1,278	2,536
合 計	10,620	8,301	18,921

資料受入状況・推移 (単位：冊)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
18,669	19,923	18,921

キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。令和3年度は、4団体（企業）から合計718冊の寄贈を受けた。

蔵書統計（資料別・分類別）

(単位：冊)

分 類	区 分	2年度累計	3年度増加	3年度除籍	利用替え	3年度累計
一般資料	0 総 記	31,864	315	20	2	32,161
	1 哲 学	26,943	334	16	1	27,262
	2 歴 史	67,065	784	5	23	67,867
	3 社会 科学	111,571	1,817	37	9	113,360
	4 自然 科学	39,011	781	9	3	39,786
	5 工学・工 業	37,726	765	16	3	38,478
	6 産 業	30,129	579	3	-94	30,611
	7 芸 術	43,327	958	27	11	44,269
	8 語 学	9,874	178	10	0	10,042
	9 文 学	95,542	1,181	10	5	96,718
	計	493,052	7,692	153	-37	500,554
地域資料	0 総 記	19,269	418	2	0	19,685
	1 哲 学	2,932	43	0	0	2,975
	2 歴 史	40,445	775	2	1	41,219
	3 社会 科学	69,850	1,611	4	0	71,457
	4 自然 科学	10,693	271	0	0	10,964
	5 工学・工 業	15,916	498	2	2	16,414
	6 産 業	23,495	500	1	1	23,995
	7 芸 術	18,381	377	1	3	18,760
	8 語 学	951	8	0	0	959
	9 文 学	29,755	533	0	2	30,290
計	231,687	5,034	12	9	236,718	
児童資料	研 究 資 料	37,639	1,243	1	13	38,894
	児 童 図 書	123,059	2,416	63	615	126,027
	計	160,698	3,659	64	628	164,921
逐次刊行物	雑 誌	179,671	4,941	151	92	184,553
	新 聞 合 本	15,862	91	0	0	15,953
	新聞記事ファイル	3,836	3	0	0	3,839
	計	199,369	5,035	151	92	204,345
特 殊 文 庫	70,280	0	0	0	70,280	
館 内 用 計	1,155,086	21,420	380	692	1,176,818	
市 町 村 支 援 計	64,013	2,536	4,132	-692	61,725	
合 計	1,219,099	23,956	4,512	0	1,238,543	

3 館内奉仕

開館日は281日、入館者は134,601人、1日平均479人の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のための館内利用の制限、また3月に発生した福島県沖地震による被害により臨時休館とした影響もあったが、開館は前年度比で30日多く、入館者数も前年度比において2万1千人の増であった。

入館者数

開館日数	281日
入館者数	134,601人
(1日平均)	479人

入館者数・推移

(単位：人)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
172,464	113,657	134,601

(1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長時間に及ぶ窓口での調査相談（レファレンス）を制限したが、総件数は前年度より約2,000件増加した。非来館による利用の中では電話によるものが前年度比約300件と最も増加している。

調査相談件数

(単位：件)

	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	7,354	1,729	9,083
電話	2,308	37	2,345
文書	125	0	125
FAX	31	0	31
電子メール	347	1	348
合計	10,165	1,767	11,932

調査相談件数・推移

(単位：件)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
12,938	9,755	11,932

ホームページアクセス件数

(単位：件)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
トップページ	334,534	253,502	190,775
蔵書検索	786,099	832,584	650,242
横断検索	530,959	404,357	28,237
デジタルライブラリー	5,315	5,070	2,931
こどものへや	2,728	5,462	2,783
利用案内	19,132	14,202	11,267

注) ホームページアクセス数が全体的に減少しているが、これは令和3年1月より情報ネットワークシステムが新システムへ移行したことにより、ホームページへのアクセスの集計方法が変更となっているためである。

(2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、前年度に続き閲覧席の削減や定期的な換気などの対策と咳エチケット等の呼びかけに努めたほか、返却された資料や、利用者が使用する端末、カウンター周り等のアルコール消毒を実施した。

(3) 館外個人貸出

貸出冊数は173,191冊、貸出者数は延べ42,551人で前年度から増加した。登録者数は12,889人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス（有料）の利用は、12件、53冊と前年度比で件数、冊数とも約4割に減少した。

館外個人貸出状況

分類	冊数(冊)	構成比(%)
総記	2,589	1.5
哲学・宗教	5,246	3.0
歴史・地理	7,170	4.1
社会科学	13,349	7.7
自然科学	8,392	4.9
工学・工業	8,195	4.7
産業	4,492	2.6
芸術	9,446	5.5
語学	1,436	0.8
文学	23,533	13.6
地域資料	7,967	4.6
新聞雑誌	7,295	4.2
小計	99,110	57.2
児童	74,081	42.8
合計	173,191	100.0

館外個人貸出状況・推移

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
冊数(冊)	158,364	143,296	173,191
のべ人数(人)	41,712	35,146	42,551

館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）（単位：人）

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
新規	3,104	2,572	3,188	8,864
更新者	1,474	1,134	1,417	4,025
合計	4,578	3,706	4,605	12,889

館外個人貸出登録者数・推移

(単位：人)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
13,813	12,942	12,889

(4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数(件)	冊数(冊)
官公庁関係	5	39
図書館その他	6	6
会社・事業所	32	295
報道関係	0	0
学校	49	49
計	92	389

特別貸出状況・推移

(単位:冊)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
870	330	389

(5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。「本のひろば」のコーナーでは「この町で笑顔で生きる認知症」を実施した。また、時事展示として「子どもたちの教科書を見てみよう!」を実施した。ミニ展示としては、美術館の企画展にあわせた「日本絵画」、「現代アートとアニメ・マンガの世界」、「認知症を知ろう」、「2021 Novel Prize」、「長田弘文庫 追加資料」を実施した。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」では、新規1本「スポーツとショウガイ」、改訂2本「教科書と、教科書をめぐるあれこれ」、「東北地方の信仰と現代の信仰」を作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和3年11月6日(土)には図書館見学会を実施し、県立図書館の役割や機能について紹介した(参加者6名)。また、同日、貴重資料を紹介する機会として、「長田弘文庫見学会」を実施した(参加者2名)。

(6) 地域資料

平成30年に没後70年を迎えた国際的歴史学者・朝河貫一博士(1873-1948)の功績を称え、令和3年度も「朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会」を開催した。講演会に合わせて貫一の父・正澄に贈られた巻物のレプリカを、制作したNPO法人の協力により展示した。

企画展示は「東日本大震災から10+1年」展を開催した。また、ミニ展示として福島県歴史資料館や福島イノベーション・コースト構想推進機構の移動展示に合わせた関連資料の展示や、隣接する美術館の企画展に合わせた資料の展示を実施した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「地域の出版文化を支える 福島民報出版文化賞」を改訂し、受賞作発表にあわせて直近10年の受賞作を展示した。ほかに「福島県立図書館所蔵 貴重資料CD-ROM」を改訂し、新規に「東日本大震災・原発事故から10年」を発行した。

また、『若松県第四大区全図』ほか劣化により原資料での利用が難しいものを中心に貴重資料をデジタル化し、閲覧・貸出の利用を容易に行えるようにした。

地域資料については、県内外の個人・団体の様々な調査相談に応えるため、レファレンスサービスを実施したほか、ホームページから目的の資料を検索しやすいよう、図書や雑誌の目次入力を経続的に実施した。

(7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』(令和3年度版)については、大熊町、双葉町、浪江町の3町以外から回答を得て発行した。

令和3年11月3日(水・祝)に、「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」を開催し、15名が参加した。国立国会図書館歴史的音源を利用してNHKの朝ドラのモデルになった古関裕而にちなんだ曲や、昭和の懐メロ、渋沢栄一の講演等を公開図書室データベースコーナーで鑑賞した。また、令和3年10月20日(水)、11月3日(水・祝)、26日(金)に「データベース講座～あなたに合ったものを見つけよう～」を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためマンツーマンの講座形式で実施し、4講座の募集に対して3名の申込があった。参加者の要望に合わせて、各自に合ったデータベースを使用し好評を得た。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて「雑誌で親しむ日本の名画」、「目が躍る～雑誌で楽しむ芸術の秋」及び「おうちでふれあうAI&プログラミング」など、社会情勢に配慮したテーマの展示を行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「雑誌とインターネットで知る学校教育」を新規で作成し、「雑誌について調べるには・・・?」を更新した。

(8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して10代の子どもたちに向けた展示を行った。また、児童図書の調査・研究用の資料や学校図書館支援用の図書を収集し、子どもの読書活動に関わる方に対して資料提供を行った。

イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」・「子ども向け講座」を開催した。

・「ちいさなおはなしかい」(4月・6月・7月・10月・11月・12月・1月・3月)

参加者合計 36名

・県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」(令和3年7月24日(土))を実施した。

参加者 9名

- ・「秋のミステリーツアー」（令和3年11月7日(日)）を実施した。
参加者 16名
- ・福島県国際交流協会との連携おはなしかい「世界のことばでおはなしかい」（令和3年12月18日(土)）を実施した。
参加者 19名
- ・「バックヤードツアー」（令和4年1月8日(土)）を実施した。主催：ふくしまリビング新聞社
参加者 26名

ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。
参加者 406名

エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌「LITTLE BIG」や児童サービス関連情報誌「児童図書研究ニュース」を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

オ パスファインダーの発行

「本の森への道しるべ」では、「のんびりほのぼの・赤ちゃんと楽しむ本」、「カーネギー賞受賞作品」、「ケイト・グリーンハウエイ賞受賞作品」、「コールデコット賞受賞作品」及び「ニューベリー賞受賞作品」を改訂した。子ども向け「調べ方あんない」の「調べ方ははじめの一步」を改訂し、「福島県のおもちゃについて調べる」及び「福島県のお城について調べる」を作成した。

カ 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための育児関連図書のコーナーを設置した。また、子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。親子で楽しむ絵本の展示を行った。

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は令和4年3月31日現在で14,646タイトルとなっており、「震災復興ライブラリー資料一覧」（改訂版）を作成し、ホームページで公開した。令和4年2月には「東日本大震災から10+1年展」に合わせ「東日本大震災福島県復興ライブラリー出張展示セットの紹介」として展示を行った。

また、「東日本大震災10+1年展」にあわせ、「新聞で見る 東日本大震災10+1年展」を実施した。

さらに、福島民報及び福島民友に掲載された震災・原発・復興関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和3年8月31日現在で更新し、同年10月27日(水)にホームページへ掲載した。

そのほか「巡回する福島県復興ライブラリー」として、

資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し、活用を図っている。令和3年度は、県中教育事務所（令和3年6月24日(木)）で出張展示が開催された。

(10) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区分	件数(件)	枚数(枚)
自・他館処理	3,157	43,519

複写利用状況・推移

(単位：枚)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
43,284	33,667	43,519

(11) 障がい者サービス

障がい者サービスの案内を作成し、関連施設等に配布した。また、「福島県立図書館所蔵 大活字コーナー資料リスト」を改訂した。

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台とこどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図った。また、11月に当館職員によるインターネット入門講座を実施した。情報ネットワークシステム更新に合わせてインターネットの座席予約システムを導入した。

インターネット利用状況 (単位：人)

区分	一般	児童	合計
人数	1,348	0	1,348

インターネット利用状況・推移

(単位：人)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
5,303	2,237	1,348

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) 『国際アンデルセン賞 ～5人の日本人受賞者～』（令和3年4月2日(金)～6月2日(水)）

「Little Novel（小さなノーベル賞）とも呼ばれる国際アンデルセン賞を日本人で受賞した5人の受賞作等を展示し紹介した。

(イ) 「福島県文化財センター白河館（まほろん）移動展示 ようこそ古墳時代へ！」

(令和3年6月4日(金)～6月30日(水))

福島県文化財センター白河館（まほろん）による展示。阿武隈川水系の古墳時代の遺跡から出土した資料などを展示。

(ウ) 「日本で開催されたオリンピック・パラリンピック～History of the Olympics and Paralympic～」

(令和3年7月2日(金)～9月1日(水))

当館所蔵の日本開催地（1964年東京・1972年札幌・1998年長野）のオリンピック・パラリンピック関連資料を展示した。

- (エ) 「福島イノベーション・コースト構想」
（令和3年9月3日（金）～10月6日（水））
公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構と連携した展示。福島イノベーション・コースト構想について、パネルや現物を用いて紹介。

- (オ) 「福島県歴史資料館移動展 習いの手引き～ふくしまの教育史料～」
（令和3年10月8日（金）～11月3日（水））
福島県歴史資料館の移動展。江戸時代から明治時代にかけての教科書や習い事に関する歴史資料を展示。

- (カ) 「新聞のはじまり～福島の新報の昔と今～」
（令和3年12月3日（金）～令和4年2月13日（日））
福島県の新報のはじまりと現在について紹介した。

- (キ) 「東日本大震災から10+1年」
（令和4年2月22日（火）～4月6日（水））
東日本大震災の発災10年が経過したことに合わせて発行された多くの資料の中から、令和3年に発行されたものを中心に記念誌、体験記、写真集等を展示した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立図書館の資料展示と県民の作品等の展示を行った。

- (ア) 「本はともだち」（県立図書館）
（令和3年4月2日（金）～6月2日（水））
- (イ) 「水彩画展 つむらやふきこコラージュの世界Ⅱ」
（令和3年6月4日（金）～6月30日（水））
- (ウ) 「YA（ヤングアダルト）の本」（県立図書館）
（令和3年7月2日（金）～9月1日（水））
- (エ) 「なかむらせつお 色鉛筆の世界」
（令和3年9月3日（金）～10月6日（水））
- (オ) 「YAの本～物語の世界～」（県立図書館）
（令和3年10月8日（金）～12月1日（水））
- (カ) 前半「令和元年東日本台風からの復旧、防災・減災対策の取組」
後半「福島県内の公共土木施設の整備効果～安心・安全、生活の質の向上、生産性向上効果～」
（令和3年12月3日（金）～令和4年1月5日（水））
- (キ) 「YA（ヤングアダルト）の本」（県立図書館）
（令和4年1月7日（金）～2月13日（日））
- (ク) 「東日本大震災福島県復興ライブラリーの出張展示用セットの紹介」
（令和4年2月22日（火）～4月6日（水））

(14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

- ア 講演会
朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会
「朝河貫一と父・正澄『報恩之辞』にみる立子山の教育」
講師 早稲田大学文学学術院教授 甚野 尚志
開催日 令和3年11月28日（日）
参加者 47名

- イ ふくしまを知る連続講座
(ア) 第1回 「中通り地方の古墳時代遺跡」
開催日 令和3年6月26日（土）
講師 福島県文化財センター白河館
副主任学芸員 鶴見 諒平
参加者 44名

- (イ) 第2回 「近世の武芸から近代の体育へ」
開催日 令和3年10月23日（土）
講師 公益財団法人福島県文化振興財団
歴史資料課副主幹 山田 英明
参加者 18名

ウ イベント

- (ア) 「歴史的音源（れきおん）で楽しむミニコンサート」
開催日 令和3年11月3日（水・祝）
参加者 15名
- (イ) 「データベース講座～あなたに合ったものを見つけよう～」
開催日 令和3年10月20日（水）、
11月3日（水・祝）、26日（金）
参加者 3名

4 館外奉仕

(1) 移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」では、以下の目的のため新型コロナウイルス対応や日程調整をしながら巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計22自治体及び5校に対して合計23,101冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。また、図書館を新規開館した自治体にも立ち上げの支援を行った。22自治体に巡回し、延べ21,603冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な7自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

公民館、認定こども園、小学校、中学校、デイサービスセンターに対して3,150冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、聴覚支援学校平校・西郷支援学校・石川支援学校・猪苗代支援学校・富岡支援学校の5校を巡回し、延べ1,498冊の資料を貸出した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位：冊)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
28,380	24,635	23,101

(2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

令和3年度の利用状況は次のとおりである。

川俣町教育委員会	372冊
浅川町教育委員会	700冊
会津美里町教育委員会	777冊
合 計	1,849冊

(3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和3年度の利用状況は次のとおりである。

玉川村教育委員会	514冊
楡葉町教育委員会	17冊
桑折町教育委員会	356冊
白河市教育委員会	6冊
浅川町教育委員会	15冊
会津美里町教育委員会	141冊
本宮市教育委員会	402冊
合 計	1,451冊

(4) 只見線駅文庫

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の会津川口駅と会津柳津駅に設置している。

(5) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書資料の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和3年度は実績なし。

(6) 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校及び特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、114テーマ(延べ269セット)を編成し貸出を行った。

令和3年度の利用状況は、9団体に対し24セット(1,033冊)を貸出した。

(7) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

第71巻(通巻275号)を令和4年3月3日(木)に発行した。主たる掲載事項としては、「福島県立図書館の非来館サービス」、「福島県立図書館で利用できるデータベースのご案内」、「福島県立図書館障がい者サービスのご案内」等。

イ 令和3年度版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書(データ版)

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館等の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は6,542,019冊で、当該人口1人当たり3.89冊(前年度3.75冊)、年間増加冊数は129,138冊である。また、令和3年度中の総貸出図書冊数は、5,594,004冊(当該人口1人当たり3.32冊)である。

ウ 福島県郷土資料情報

第62号を発行。特集として平成11年度から連載している「福島県関係書誌の紹介」のうち人物編の総索引を作成し、人物調査の利便性を高めた。ほかに「朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会」と「福島を知る連続講座」の実施報告と連載の「福島県関係書誌の紹介2021」を掲載した。100部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

5 図書館協力

(1) 相互協力と遠隔地返却、受取館指定サービス

相互貸借(他館との資料の貸借)サービス、遠隔地返却(当館からの借受け資料を他館に返却する)サービスを行っている。予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる受取館指定サービスの利用は増加傾向にあり、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い新しい生活様式が浸透していく中で、市町村図書館を窓口資料の提供を行う相互貸借(貸出)も前年度比105%と回復した。一方、相互貸借(借用)については、前年度比76%と減少した。非来館による県立図書館の資料利用が増加していることがわかる。

相互貸借状況 (単位：件/冊)

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	992	4,222	406	706	1,398	4,928
借用	209	337	101	122	310	459
小計	1,201	4,559	507	828	1,708	5,387

相互貸借状況・推移 (単位：冊)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
5,431	5,186	5,387

遠隔地返却冊数・推移 (利用者が来館し借受けた資料を県内の公立図書館に返却した冊数) (単位：冊)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
7,212	6,272	7,750

(2) 学校図書館サポートセット貸出

県内の小・中学校における学校図書館活動を支援するため、授業の過程において利用することを目的に、希望するテーマに合わせて資料を選びセットにして貸出を行った。令和3年11月からの試行事業。令和3年度の利用状況は、5校(延べ)7セット(136冊)を貸出した。

(3) 図書館協力事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。令和3年度は、20コースを編成し、34自治体と2高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

(4) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

(ア) テーマ <講話>

「図書館で働くということ～図書館サービスの意味を考える～」

「子どもたちと本を結ぶ～その意義と役割～」

<分科会>

①「図書館と相互協力～福島県の図書館事情を踏まえて～」

②「公民館図書室の基本と実践～県立図書館の活用を見据えて～」

③「学校図書館が目指すもの～その役割を考える～」

(イ) 期 日 <講話> (録画配信)

令和3年5月28日(金)～8月31日(火)

<分科会> (オンライン)

①令和3年9月29日(水)、②令和3年9月28日(火)、③令和3年9月22日(水)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 51名

(オ) 講 師 義務教育課指導主事 松山 秀和
県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会 (オンライン)

(ア) テーマ 「新しい生活様式に対応した図書館サービス」

(イ) 期 日 令和3年11月26日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 23名

(オ) 講 師 明治大学文学部教授 青柳 英治

ウ 福島県内図書館初任者職員実務研修会

(ア) 期 日 令和3年6月24日(木)～25日(金)

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 4名

(エ) 講 師 福島県立図書館職員

エ 福島県内児童書担当職員研修会 (オンライン)

(ア) テーマ 「公共図書館と学校図書館との連携」

(イ) 期 日 令和3年9月10日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 84名

(オ) 講 師 社会教育課社会教育主事 石倉 智幸
新地町図書館副主任司書 高橋 裕美
泉崎図書館司書 野崎 珠美
南相馬市立中央図書館主任司書 佐藤 真紀
福島大学名誉教授 高野 保夫

(5) 第19回福島県図書館研究集会 (オンライン)

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「アウトリーチサービス～来館できない人にサービスを届ける～」

イ 期 日 令和3年12月17日(金)

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 47名

オ 内 容

<はじめに>

「事例発表を読み解く視角」

講 師 十文字学園女子大学准教授 石川 敬史

<事例報告>

「暮らしの中に町の図書館を 富岡町の移動図書館」

富岡町図書館 司書 東山 恵美

「広島県立図書館のアウトリーチサービス」

広島県立図書館 副館長 植田 佳宏

「埴町立図書館の宅配サービス」

埴町立図書館 司書 割貝 暁美

<講演>

「アウトリーチサービスとは何かー現場で共に考えるためにー」

講 師 十文字学園女子大学准教授 石川 敬史

<質疑応答・ディスカッション>

アドバイザー 石川 敬史、植田 佳宏

(6) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、「福島県内大学図書館連絡協議会」の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらすわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

第12節 福島県立美術館

1 概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

令和3年度の美術館活動の概要は次のとおりである。

なお、令和3年度は、前年度に実施した改修工事に伴い、開館準備のため、令和3年4月1日(木)から5月21日(金)まで休館となった。

(1) 美術館運営協議会

ア 委員

山口 功	福島県中学校教育研究会美術部所属 (平成25年1月1日～)
番匠あつみ	福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属 (平成27年1月1日～)
大沼 博文	公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼 福島県文化センター館長 (令和3年1月1日～) ※会長
坂本 節子	福島県家庭教育インストラクター (平成25年1月1日～) ※副会長
齋藤 勝正	福島県美術家連盟顧問 (平成29年1月1日～)
半沢 治久	日本放送協会福島放送局長 (令和2年9月15日～)
岡部 兼芳	はじまりの美術館館長 (令和3年1月1日～)
笠原美智子	アーティゾン美術館副館長 (令和3年1月1日～)
齋藤美保子	郡山女子大学短期大学部副学長・教授 (平成27年1月1日～)
舟木 藤弘	福島県立美術館友の会理事 (平成29年1月1日～)

イ 協議会の開催

- (ア) 期日 令和4年3月10日(木)
- (イ) 内容 ・令和3年度事業の概要
・福島県立美術館運営計画案
・令和4年度事業計画案の概要
・福島県立美術館の運営等

(2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体	・全国美術館会議 (会員)
	・日本博物館協会 (会員)
	・日本博物館協会東北支部 (会員)
	・東北地区博物館協会 (会員)
	・福島県博物館連絡協議会 (理事)

2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的にを行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

なお、令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により収集評価委員会の開催を中止したため、新たに収蔵した作品はない。

(1) 収蔵作品点数(令和4年3月31日現在)

海外作品	450点
日本画	371点
洋画	920点
版画	1,148点
立体	145点
工芸	158点
書	39点
素描・下絵	217点
写真	410点
作品合計	3,858点
美術資料	69件

(2) 収集評価委員会

ア 委員

中山 恵理	郡山市立美術館主任主査 (令和元年12月1日～)
松下 由里	群馬県立近代美術館次長兼学芸係長 (令和元年12月1日～)
水沢 勉	神奈川県立近代美術館館長 (令和元年12月1日～)
濱崎 礼二	宮城県美術館副館長 (令和3年12月1日～)
西山 純子	千葉市美術館上席学芸員 (令和3年12月1日～)

イ 委員会の開催

期日：令和4年2月22日(火)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) 図書資料の収集

収蔵図書数 63,811冊

(4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

ア 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)

時期：令和3年6月7日(月)～21日(月)、
8月15日(日)～29日(日)

内容：展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ 美術品の修復

井上武吉《My Sky Hole 89-2》のクリーニング、山内神斧《和蘭陀船》、大石源太郎《風景》、若松光一郎作品4点(《出漁前》、《作品(A)》、《[作品]》、《無題》)の修復を行うとともに、大宮政郎作品9点

の額を交換した。

また、令和3年2月13日に発生した福島県沖地震により被災した鳥井美央《冬の漁港》、橋本章《地平》、《砂による絵画・作品No.10》の修復及び16作品の額の修復・交換を行った。

ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 年4回測定

(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計8か所

3 展示事業

(1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回（版画は年8回）展示替えを行っている。令和3年度は、休館期間があったため、展示替えは3回行った。

コレクション展Ⅰ 令和3年5月22日(土)

～9月5日(日)

日本画の名品：速水御舟《女二題》、福田豊四郎《ふるさとへ帰る》

アメリカの美術：ワイエス《松ぼっくり男爵》、シャーン《リルケ「マルテの手記」より》

フランス美術の名品：ルノワール《帽子を被る女》、シャガール《死せる魂》

関根正二と近代の洋画：森田恒友《漁村風景》、安井曾太郎《ターブルの上》、関根正二《姉弟》、村山槐多《庭園の少女》、長谷川利行《浅草の女》

斎藤清の版画：《雨のミシガン》《競艶》《凝視(花)》《京都の壁(B)》

銅版画の魅力：長谷川潔《アレキサンドル三世橋とフランスの飛行船》

創作版画：山本鼎・青木繁《鑄釜》、渡辺光徳《すか川御隠居岳》

コレクション展Ⅱ 令和3年9月14日(火)

～12月26日(日)

没後20年 鈴木治・山田光：鈴木治《掌上泥象三十八景》、山田光《黒陶 数字と窓》

現代の日本画：齋藤隆《ドラマ(地の巻)》、津田一江《連鎖と残影の自画像》

関根正二と大正期の洋画：岸田劉生《静物》、関根正二《一本杉の風景》《自画像》

吉井忠とモンパルナスの画家たち：松本竣介《駅》、麻生三郎《家族》、吉井忠《空の祭壇》

海外作品の名品：ワイエス《ドイツ人の住むところ》、シャーン《恐怖の夜の町》、コロー《ヴィル・ダヴレー》、ゴーギャン《ブルターニュの子供》

現代の版画：野田哲也《日記1973年10月25日》、横尾忠則《聖シャンバラ》、斎藤清《教会、フランス(A)》《シグナル(A)》《赤い花》《ヌード》

コレクション展Ⅲ 令和4年1月5日(水)

～3月6日(日)

冬の日本画—ふるさとの風景：酒井三良《雪に埋もれつつ正月はゆく》《冬暖》、森田恒友《雪国帖》、福田豊四郎《春を待つ》

佐藤玄々の彫刻：佐藤玄々（朝山）《禮略》《青鳩》（河野保雄コレクション）

関根正二と洋画：高橋由一《三県道路完成記念帖》、関根正二《真田吉之助夫妻像》

「福島の新世代」展をふりかえる：高橋克之《集会》、玉川信一《凍日》、安藤栄作《約束のつばさ》、山中現《第二夜》

海外の名品選：国吉康雄《婦人と子供》、シャーン《ラッキードラゴン》、ルオー《ミセレーレ》、モネ《ジヴェルニーの草原》

写真家・サマラッティ：ペンティ・サマラッティ《猪苗代湖、会津若松市》《南相馬市》

写真家・小関庄太郎：《田舎の風景》《手をふる少女》《冬の子供》

(2) 特集展示

令和3年度は2つのテーマによる特集展示を行った。

ア 横井美恵子コレクション

—佐藤玄々（朝山）の彫刻—

(ア) 会期 令和3年5月22日(土)～6月20日(日)

開催日数 26日

(イ) 分野 立体

(ロ) 展示数 19点

(ハ) 観覧料 常設展料金

(ニ) 観覧者数 1,721名（イを含む）

(ホ) 概要

相馬市出身の佐藤玄々（朝山）（1888-1963）は、近代日本を代表する彫刻家の一人。フランスの彫刻家ブールデルから学び、伝統木彫に近代的な視点を取り入れた。横井美恵子は玄々の縁戚にあたり、玄々の業績顕彰のためにその作品を収集し、当館に寄贈された。本展示では令和元年度に新たに寄贈された《牝猫》《蜥蜴》などを中心に19点を紹介した。

(ヘ) 関連事業

・ギャラリートーク

講師：増渕 鏡子（専門学芸員）

日時：令和3年6月5日(土)14時～15時

場所：企画展示室内

参加者数：15名

イ 福島作家・福島風景

(ア) 会期 令和3年5月22日(土)～6月20日(日)

開催日数 26日

(イ) 分野 日本画・洋画・写真・陶芸

(ロ) 展示数 24点

(ハ) 観覧料 常設展料金

(ニ) 観覧者数 1,721名（アを含む）

(カ) 概要

近年コレクションに加わった作品から、酒井三良、黒沢吉蔵、吉井忠、緑川宏樹、瀬戸正人らの作品を紹介するとともに、令和3年1月に90歳で逝去した彫刻家の橋本堅太郎と、令和2年7月に逝去した三浦哲往の作品を追悼展示した。

(キ) 関連事業

・ギャラリートーク

講師：伊藤 匡（専門員）

日時：令和3年6月19日（土）14時～15時

場所：企画展示室内

参加者数：20名

(3) 企画展

令和3年度は5回の企画展を開催し、国内外の様々な芸術文化を紹介した。

ア ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展

(ア) 会期 令和3年7月8日（木）～9月5日（日）

開催日数 52日

(イ) 分野 日本美術

(ウ) 展示数 92点

(エ) 主催 ミネアポリス美術館福島展実行委員会〔構成：福島県立美術館、福島中央テレビ、福島民友新聞社〕、ミネアポリス美術館、読売新聞社
協賛 エフコム、ギャラリー菜根、大和ハウス工業福島支社、福島県商工信用組合

(オ) 観覧料 一般1,500(1,300)円、学生1,100(900)円、小・中・高校生650(600)円

※（ ）内は前売料金または20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 27,406名

(キ) 概要

ミネアポリス美術館は、アメリカ中西部の大都市ミネアポリスに1883年に設立された。開館当初から日本美術を収集し、3,000点からなる浮世絵コレクションをはじめ、質量ともにアメリカ有数の日本美術コレクションを有することで有名である。本展は伊藤若冲をはじめ、葛飾北斎の浮世絵など江戸絵画を中心に、その優れたコレクションの一端を紹介する展覧会。晩年を福島県三春で過ごした雪村や、会津ゆかりの浦上春琴、白河ゆかりの谷文晁の作品などが里帰りした。新型コロナウイルス感染症の拡大時期であったが、万全の対策のもと多くの来館者があり、フォーラム福島やA・O・Z（アオウゼ）で実施した連携企画なども盛況であった。

イ THE ドラえもん展 FUKUSHIMA 2021

(ア) 会期 令和3年9月23日（木・祝）

～11月23日（火・祝） 開催日数 54日

(イ) 分野 現代美術

(ウ) 展示数 46点

(エ) 主催 THE ドラえもん展 FUKUSHIMA 2021 実行委員会〔構成：福島県立美術館、福島放送、福島民報社〕

特別協力 藤子プロ

協賛 トヨタカラー福島

企画・制作 THE ドラえもん展 TOKYO 2017 実行委員会〔テレビ朝日、朝日新聞社、ADK EM、小学館、シンエイ動画、小学館集英社プロダクション、乃村工藝社〕

(オ) 観覧料 一般・大学生1,400(1,200)円

中学・高校生1,200(1,000)円

小学生500(400)円

※（ ）内は前売料金または20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 60,671名

(キ) 概要

1970年に藤子不二雄が発表した漫画「ドラえもん」は、アニメにもなって日本中の子供の人気者となった。本展は、国民的キャラクター「ドラえもん」をモチーフに、「あなただけのドラえもんを作ってみてください」という呼びかけに応えた現代アーティスト28組の作品46点で構成された展覧会である。村上隆、奈良美智、蛭川実花など、現代美術のスーパースターたちや注目の若手作家たちが熱い思いをこめて作った1点しかないドラえもん作品が並んだ。現代アートの楽しさにふれる格好の入門展であり、その魅力を来場した家族連れや若年層に広く伝えることができ、開催の意義を果たすことができた。

ウ 瀬戸正人 記憶の地図

(ア) 会期 令和3年12月4日（土）

～令和4年1月30日（日） 開催日数 41日

(イ) 分野 写真

(ウ) 展示数 139点

(エ) 主催 福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ
協賛 ライオン、DNP 大日本印刷、損保ジャパン

(オ) 観覧料 一般・大学生800(700)円

高校生400(300)円

小・中学生200(150)円

※（ ）内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 1,763名

(キ) 概要

瀬戸正人（1953- ）はタイ国ウドンタニ市に、日本人の父とベトナム人の母のもとに生まれ、1961年に父の故郷である福島県の梁川町に移り住んだ。高校卒業後、上京して写真を学び、1996年には特異な視点で都会に生きる人々を見つめた〈Living Room, Tokyo 1989-1994〉〈Silent Mode〉で第21回木村伊兵衛写真賞を受賞。また2021年には第37回写真の町東川賞国内作家賞を受賞するなど、日本を代表する写真家の一人として国内外で活躍している。本展では、デビュー作〈バンコク、ハノイ1982-1987〉、初期から震災後までライフワークとして撮り続けてきた〈Fukushima〉、最新作〈Silent Mode 2020〉までを展示し、瀬戸の

「記憶の地図」を辿った。

また、瀬戸は、自ら運営するギャラリー〈Place M〉で2000年から写真のワークショップ「夜の写真学校」を始め、多くの参加者と写真に向き合ってきた。本展関連事業として8月から12月まで「瀬戸正人写真学校 in 福島」を開校し、写真を撮ることとは違った、もう一つの瀬戸の写真との向き合い方を紹介し、参加者に体験してもらった。

(ク) 関連事業

・映画上映会「トオイと正人」

監督・脚本：小林 紀晴／原作：瀬戸 正人／

ナレーション：鶴田 真由／

出演：瀬戸 正人、尾方 聖夜／音楽：いろのみ

(2021年、カラー、63分)

日時：①令和3年12月5日(日)10時30分、14時

瀬戸正人氏と小林紀晴氏によるアフター
トーク(14時の回終了後)

②令和4年1月15日(土)10時30分、
13時、15時

場所：講堂

参加者数：①70名、②50名

・ギャラリートーク

講師：荒木 康子(専門員)

日時：①令和3年12月18日(土)14時～

②令和4年1月9日(日)14時～

場所：企画展示室内

参加者数：①10名、②10名

・ワークショップ

「瀬戸正人写真学校 in 福島」(全6回)

講師：瀬戸 正人

参加者数：40名

日時・場所：

①令和3年8月22日(日)13時30分～ 講堂
(講師は東京からリモート参加)

②令和3年9月19日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

③令和3年10月24日(日)13時30分～ 講堂

④令和3年11月21日(日)13時30分～ 講堂

⑤令和3年12月12日(日)13時30分～

企画展示室B

⑥令和3年12月26日(日)13時30分～

企画展示室Bにおいて作品展示

・特別ギャラリートーク

講師：瀬戸 正人

日時：令和3年12月26日(日)12時30分～

場所：企画展示室内

参加者数：70名(写真学校参加者含む)

・「瀬戸正人写真学校 in 福島 成果展」

会期：令和4年1月5日(水)～30日(日)

場所：企画展示室B

エ 福島アートアニュアル 2022

(7) 会期 令和4年2月8日(火)～3月6日(日)

開催日数 23日

(イ) 分野 工芸、彫刻

(ウ) 展示数 35点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般・大学生 400(300)円

高校生 200(100)円

小・中学生 100(50)円

(カ) 観覧者数 1,496名

(キ) 概要

福島県立美術館では開館以来、福島県出身・ゆかりの若手作家を紹介する企画展を継続的に開催してきた。そこで、令和3年度からは新たに、近年充実した創作活動を繰り広げている若手作家を紹介するシリーズ企画「福島アートアニュアル」を立ち上げることとなった。

第1回となる本展では、漆芸家の吾子可苗(1980年北海道生まれ、会津若松市在住)、彫刻家の黒沼令(1978年岩手県生まれ、郡山市在住)の2名を取り上げた。漆を用いて植物の生命力や神秘性を表現する吾子。木材を複雑に組み合わせ、静かな空気感をまとった人の姿を表す黒沼。それぞれの“かたち”が生まれるとき、彼らはどのような想いで創作に向かっているのだろうか。震災を経て、コロナ禍にある現代に生きる彼らの創作活動の一端を紹介した。

(ク) 関連事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

・出品作家によるギャラリートーク

・創作プログラム

「お気に入りの絵を彫ろう 漆の沈金体験」

オ 写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き2&どうぶつ家族

(7) 会期 令和4年3月19日(土)～5月22日(日)

開催日数 56日(令和3年度11日)

(イ) 分野 写真

(ウ) 展示数 約260点

(エ) 主催 福島県立美術館、福島民報社

後援 NHK福島放送局

企画協力 株式会社NHKエンタープライズ

企画制作 クレヴィス

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円

高校生 600(500)円

小・中学生 400(300)円

※()内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 19,094名(令和3年度3,022名)

(キ) 概要

岩合光昭は、動物写真家として今や世界中にファンを持つ、人気と実力を兼ね備えた写真家である。近年話題となったシリーズに「岩合光昭の世界ネコ歩き2」(NHKBSで放映中)や「どうぶつ家族」があり、本

展は、この2シリーズを同時に展示し、動物写真家・岩合光昭の世界を約260点の作品で味わう初めての展覧会である。ネコたちの屈託のない立ち振る舞いや、動物たちの飾らない愛情に満ちた表情は、東日本大震災から10年以上を経て、あらためて命の尊さ、家族の絆、生命の循環といった普遍的な問題を考える機会を提供してくれた。

(ク) 関連事業

- ・「自慢のネコちゃん写真大募集」

自慢のネコちゃんの写真を応募いただき、応募写真をすべてエントランスホールに展示した。

受付期間：令和4年3月19日(土)～4月30日(土)

展示期間：令和4年3月19日(土)～5月22日(日)

応募総数：414枚

(4) 動画配信等による情報発信

令和2年4月30日に動画共有サービスYouTubeに公式チャンネルを開設し、展覧会の見どころ等を紹介する動画配信を始めた。令和3年度における配信状況は次のとおりである。

- ・特集展示「佐藤玄々（朝山）の彫刻」「福島の作家・福島の風景」のご案内
- ・福島県立美術館企画展「ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展」予告
- ・福島県立美術館 常設展示のご案内（2021年度第I期）
- ・福島県立美術館企画展「ミネアポリス美術館 日本絵画の名品展」開催中
- ・福島県立美術館企画展「福島アートアニュアル2022」

4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

(1) 調査活動

令和3年度は、県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家（亜欧堂田善、吉井忠ら収蔵作家、吾子可苗、黒沼令ら若手作家、李禹煥、北川健司ら現代版画家など）の調査を重点的に行った。

(2) 研究紀要

福島県立美術館研究紀要第7号を発行した。

- ・B5版79ページ、発行部数600部
- ・執筆者1名（堀 宜雄）

5 教育普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

(1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

令和3年度の受入団体総数は122団体3,720名で、そのうち解説を行ったのは71団体2,586名である。

(2) 鑑賞講座

芸術鑑賞講座「名画との対話」

講師：早川 博明（当館前館長）

場所：講義室

第1回「レオナルド・ダ・ヴィンチと《モナ・リザ》」

日時：令和3年6月12日(土)10時30分～12時

参加者数：22名

第2回「ジョルジョーネと《ラ・テンペスタ(嵐)》」

日時：令和3年8月14日(土)10時30分～12時

参加者数：16名

第3回「ティツィアーノと《聖愛と俗愛》」

日時：令和3年10月9日(土)10時30分～12時

参加者数：15名

第4回「カラヴァッジョと《聖マタイ伝と連作》」

日時：令和3年12月11日(土)10時30分～12時

参加者数：16名

(3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア 「カラフル木っ端でカタチをつくろう」

令和3年6月6日(日)13時30分～15時

・講師：佐野 美里（彫刻家）

・場所：エントランスホール

・参加者数：18名

イ 「おさんぽ美術館ーマップをつくろう！」

令和3年6月20日(日)13時30分～15時

・講師：大北 孝（主任学芸員）

白木 ゆう美（副主任学芸員）

・場所：実習室、庭園など

・参加者数：7名

ウ 「水墨画体験」

令和3年7月31日(土)、8月1日(日)10時～16時

※2日連続

・講師：久保木 桂子（美術家）

・場所：実習室

・参加者数：各8名

エ 「墨であそぶ・墨でえがく」

令和3年8月7日(土)10時30分～15時

・講師：久保木 桂子（美術家）

・場所：実習室

・参加者数：8名

オ 「瀬戸正人写真学校 in 福島」 (全6回)
令和3年8月22日(日)、9月19日(日)、10月24日(日)、11月21日(日)、12月12日(日)、12月26日(日)、毎回13時30分～16時

※9月19日(日)は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・講師：瀬戸 正人 (写真家)
- ・場所：講堂、企画展示室
- ・参加者数：各40名

カ 「窓に描くクリスマス」

令和3年12月18日(土) 10時～15時

- ・講師：小原 風子 (画家、絵本作家)
- ・場所：実習室、庭園など
- ・参加者数：17名

キ 「お気に入りの絵を彫ろう 漆の沈金体験」

令和4年2月26日(土)午前・午後

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(4) 美術館への年賀状展

県内の小・中・高校生から寄せられた手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示した。

- ・会期：令和4年1月12日(水)～30日(日)
- ・応募総数：171通
- ・観覧者数：554名

(5) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より実施している連携事業。こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

令和3年度は、小学校・中学校・高等学校・適応指導教室合わせて10校(参加者延べ143名)で開催した。ワークショップで制作した作品は、令和4年2月8日(火)～2月27日(日)の期間、当館企画展示室Bにおいて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

(ア) 講師：門馬 美喜 (アーティスト)

プログラム：建築廃材で小さなまちをつくろう

ー木製ブックスタンド制作ー

内容：福島県の復興に使われた様々なかたちの建築廃材を自由に組み合わせて、ブックスタンドをつくるワークショップ。

開催校・開催日・人数：

福島県立相馬高等学校 (美術部)
令和3年11月7日(日) 12名

(イ) 講師：宮嶋 結香 (画家)

プログラム：古紙を使って絵を描いてみよう！

内容：紙袋や包装紙など一度役目を終えた紙を破き、

断面やシワや入っている模様からイメージを膨らませて自由に絵を描くワークショップ。

開催校・開催日・人数：

田村市立大越小学校 (6年生)
令和3年11月17日(水) 22名
田村市立要田小学校 (5・6年生)
令和3年11月17日(水) 16名
南相馬市立太田小学校 (5・6年生)
令和3年11月18日(木) 9名
二本松市立渋川小学校 (4年生)
令和3年11月19日(金) 12名
郡山市立日和田中学校 (美術部)
令和3年11月5日(金) 7名
会津坂下町立坂下中学校 (文化部)
令和3年11月14日(日) 19名
須賀川市立小塩江中学校 (全校生)
令和3年11月19日(金) 16名
会津若松市立第二中学校 (美術部)
令和3年11月21日(日) 12名

(ウ) 講師：大北 孝 (主任学芸員)

プログラム：好きなもので友達の顔を描いてみよう！
内容：色々な画材を使ってキャンパスに友達の顔を描くワークショップ。

開催校・開催日・人数：

福島市教育委員会教育研修課 (ふれあい教室)
令和3年10月5日(火) 5名
福島市教育委員会教育研修課 (ふれあい教室)
令和3年10月7日(木) 6名
福島市教育委員会教育研修課 (ふれあい教室)
令和3年10月26日(火) 7名

イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について、講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

令和3年度は、前期講座が新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となり、後期講座のみ開催した。

(ア) 前期

日時：令和3年8月6日(金)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(イ) 後期

日時：令和3年11月2日(火)10時～15時45分

場所：福島県立美術館

講義・演習「学校と美術館の連携活動について」

演習「鑑賞用教材を活用した鑑賞活動」

講師：梅野 史代 (教育センター指導主事)

大北 孝 (主任学芸員)

参加者：小学校教諭2名、中学校教諭3名、高等学校教諭3名、特別支援学校教諭3名
合計11名

(6) 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時：令和3年8月24日(火)～29日(日)

受講者数：3名

(7) 県立図書館との連携事業

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみかかせ」と美術館の「鑑賞と工作のワークショップ」を連携させた「アートなおはなしかい」を、平成18年度から継続実施している。

日時：令和3年7月24日(土)14時～15時30分

場所：福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数：6名

6 館外連携

県内外の関係機関等と連携・協力して、芸術文化活動の質の向上、県民の美術に対する知識及び教養の向上、地域の活性化に取り組んでいる。

令和3年度においても、関係団体との連携事業を実施するとともに、他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等として学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

(1) 友の会、協力会との連携事業

例年、友の会が実施している企画展開催時のボランティアやアートチャリティーバザー、実技講座等については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせた。令和3年度に友の会や協力会と実施した連携事業は次のとおりであるが、一部事業については中止となった。

ア 「アートミーツクッキー」

＜NPO法人福島県立美術館協力会との共催＞

「見る」「書く」「描く」「食べる」と様々な感覚を取り入れた、子どもも大人も参加できるアクティブ型の美術鑑賞企画を実施した。

日時：令和3年10月30日(土)9時30分～14時30分
(当初予定 令和3年9月20日(月・祝))

場所：庭園、常設展示室

企画・ディレクション：フライデースクリーン

参加者数：200名

イ ミュージアム・コンサート

「春を呼ぶピアノとソプラノの歌声」

＜NPO法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共催＞

日時：令和4年2月20日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ

「黒沼令さんの木彫を鑑賞する」

＜NPO法人福島県立美術館協力会との共催＞

日時：令和4年3月5日(土)午前・午後

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

エ アートカード「ぼけっとアート」貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式

にした鑑賞補助教材「ぼけっとアート」の貸出を継続して行っている。令和3年度の貸出総数は、小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め、146か所、774セットである。

(2) 他機関への協力

ア 委員等

- ・福島市文化振興条例検討委員会委員(長根 由里子館長)
- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事
(長根 由里子館長、堀 宜雄副館長心得兼学芸課長)
- ・福島県総合美術展覧会運営委員
(堀 宜雄副館長心得兼学芸課長)
- ・第75回福島県総合美術展覧会大賞選考委員
(堀 宜雄副館長心得兼学芸課長)
- ・白河市名誉市民選考委員会委員
(堀 宜雄副館長心得兼学芸課長)
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員
(増渕 鏡子専門学芸員)
- ・相馬市史調査編さん委員(増渕 鏡子専門学芸員)
- ・福島市写真美術館運営委員会委員
(紺野 朋子主任学芸員)
- ・西会津国際芸術村公募展審査員(坂本 篤史主任学芸員)
- ・猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査委員
(坂本 篤史主任学芸員)
- ・矢祭もったいない図書館手づくり絵本コンクール第二次審査選考委員
(橋本 恵里学芸員)
- ・須賀川市文化財保護審議会委員(伊藤 匡専門員)
- ・郡山市立美術館協議会委員(荒木 康子専門員)
- ・いわき市立美術館収集評価委員(荒木 康子専門員)
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員(荒木 康子専門員)

イ 講師、寄稿、発表、受賞等

- ・福島大学行政政策学類「博物館経営論」
令和3年4月8日(木)～9月30日(木)
全15回(講師：荒木 康子専門員)
- ・公益財団法人大和文華館シンポジウム
「酒の美術ー日本・中国から西洋までー」
令和3年10月10日(日)(講師：坂本 篤史主任学芸員)
- ・福島県立医科大学医学部「芸術と文化 博物館・美術館にみる芸術と文化」
 - ①令和3年11月10日(水)(講師：橋本 恵里学芸員)
「THE ドラえもん展」
 - ②令和3年11月13日(土)(講師：橋本 恵里学芸員)
企画展・常設展見学
 - ③令和3年11月17日(水)(講師：荒木 康子専門員)
「福島県立美術館のコレクション」
- ・福島県立医科大学保健科学部「福島県を知る」
令和3年8月10日(火)(講師：堀 宜雄副館長心得兼学芸課長、増渕 鏡子専門学芸員、橋本 恵里学芸員)
- ・西会津国際芸術村「展示実習」
令和3年6月4日(金)(講師：坂本 篤史主任学芸員)

7 施設・設備の整備

令和3年2月13日に発生した福島県沖地震により、建物や設備、敷地内舗装等に被害が生じたため、令和3年度は、通常の施設・設備の維持管理に加えて、被災した設備等の復旧に取り組んだ。令和3年度における災害復旧費総額は17,227千円であった。

第13節 福島県立博物館

1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。

令和3年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

(1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

学校教育

高橋 由江 会津美里町立新鶴中学校校長

齊藤 恵子 福島県立郡山支援学校校長

社会教育

長野 隆人（会長） いわき芸術文化交流館副館長

佐藤 公（副会長） 磐梯山噴火記念館館長

家庭教育

滝澤 玲子 福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会津さざなみの会会員

学識経験者

川口 立喜 公立大学法人会津大学グローバル推進本部国際戦略室長・准教授

四家 久央 合名会社四家酒造店代表社員

大越 章子 日々の新聞社記者

岩崎 和美 書道家

公募

町田 久次 公募委員

イ 会議

第1回 令和3年7月28日(水)

議題

- ①令和2年度博物館入館者数について
- ②令和3年度当初予算について
- ③令和3年度事業計画について
- ④企画展・特集展について
- ⑤中期目標の進捗状況について
- ⑥「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」及び「三の丸からプロジェクト」事業について
- ⑦ポリフォニックミュージアムについて
- ⑧新型コロナウイルス対策について

第2回 令和4年2月22日(火)

議題

- ①令和4年度事業計画（案）について
- ②文化観光拠点施設機能強化事業（三の丸からプロジェクト）について
- ③館内施設の視察

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員長
岡田 清一	東北福祉大学大学院嘱託教授（専任職）	副委員長
青野 友哉	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授	
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	
奥村 弘	神戸大学理事・副学長	
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授	
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	
角屋 由美子	米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長	
玉川 一郎	福島県考古学会長	
原田 一敏	ふくやま美術館長	
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	
柳沢 秀行	公益財団法人大原美術館学芸統括	

イ 会議

コロナ禍のため、例年の形での会議の対面開催を行わず、オンライン開催とした。

開催日：令和3年8月4日(水)

議題

- ①今後2年間の展示計画について
- ②令和4年度・令和5年度開催予定企画展について
- ③購入予定資料について
- ④「三の丸からプロジェクト」について

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

(ア) 受贈 徳川家綱御内書ほか 計68件

(イ) 受託 磐梯山噴火実況図ほか 計105件

イ 美術資料

(ア) 受贈 春峯筆「山水図屏風」ほか 計206件

(イ) 受託 木造聖観音坐像ほか 計19件

ウ 民俗資料

- (ア) 受贈 鹿島流しの船と鹿島人形ほか 計 62 件
- (イ) 受託 会津だるま 1 件
- エ 考古資料
 - (ア) 受贈 採集考古資料 789 件
- オ 自然資料
 - (ア) 受贈 異常巻きアンモナイトほか 計 16 件
 - (イ) 受託 宮古層群産アンモナイト 1 件
- カ 災害分野
 - (ア) 受贈 東日本大震災被災地写真 DVD ほか 計 5 件

(3) 購入

- ア 自然資料
 - 現生動物骨格標本ほか 計 5 件
 - イ 図書資料
 - (ア) 一般図書 100 冊
 - (イ) 定期刊行物 31 種
- ### (4) 制作
- ア 民俗資料 大わらじ 1 件
 - イ 自然資料 アンモナイトと海生動物の復元イラスト 1 件

3 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

- ア 博物館資料
 - 資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は 1 件と数える。

収蔵資料数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

分野	件数	備 考
考古	21,023	土器・石器・金属器ほか
民俗	14,060	生活・生業・交通・信仰・芸用具ほか
歴史	22,623	書籍・文書資料ほか
美術	7,428	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	44,540	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	380	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	110,054	

令和3年度収蔵指定文化財 国指定:8 件

福島県指定:45 件

イ 図書及び映像

(ア) 収蔵図書数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

考古分野：28,930 冊 民俗分野：5,104 冊
 歴史分野：11,035 冊 美術分野：4,896 冊
 自然分野：17,800 冊 保存分野：1,917 冊
 震災遺産：159 冊 その他：62,677 冊
 合計：132,518 冊

(イ) 収蔵映像資料数（令和 4 年 3 月 31 日現在）

収蔵映像資料総数：1,374 点

(2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

平成 25 年度から、それまでのサーバクライアント方式による資料管理システムに換えて、新たに ASP 方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I. B. Museum SaaS を導入している。一部の登録項目の再構成については、令和元年度に改修を実施した。

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和 4 年 3 月 31 日現在)

資料類別	登録資料 (令和 3 年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和 3 年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	459	12,589	136	3,668
民俗資料類	137	15,345	137	5,717
歴史資料類	626	46,477	1,304	16,021
美術工芸品類	353	6,584	32	68
自然標本類	187	26,720	1,210	14,341
合計	1,762	107,715	2,819	39,815

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止により、ボランティア活動日が減った。

(ア) 自然資料整理

磐梯山関係資料のほか、化石の整理作業
 登録人数 2 名 活動日数 3 日

(イ) 古文書整理

歴史資料の整理作業（表題・年代・法量などのデー

タ採取）登録人数 9 名 活動日数 8 日

(ウ) 民俗資料整理

藁人形資料のほか写真資料の整理
 登録人数 2 名 活動日数 12 日

(エ) 考古資料整理

古墳出土資料の撮影・寄贈資料の整理
 登録人数 1 名 活動日数 18 日

(3) 貸出

ア 博物館資料
貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 慶長6年銘 1点	磐梯町磐梯山	令和3年4月6日～	常設展
十二天図(慧日寺旧蔵)旧軸木 延宝3年銘 1点	慧日寺資料館	令和4年12月3日	
メタセコイア化石のレプリカ 1点	地質標本館	令和3年9月20日～ 12月15日	企画展「生きている化石 メタセコイア」
イヌワシ剥製標本 1点	ただみ・ブナと川のミュージアム	令和3年12月1日～ 令和4年4月4日	企画展「只見の猛禽類」
縄文時代土偶髪型復元模型 3点	江戸東京たても の園	令和3年10月1日～ 令和4年6月30日	特別展「縄文2021—縄文のくらし とたてもの一—」

イ 写真資料

総数 : 103 件 184 点

考古 : 14 件 25 点 民俗 : 17 件 53 点

歴史 : 46 件 73 点 美術 : 24 件 30 点

災害 : 2 件 3 点

(4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所^①の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)など主要なスペースの保存環境を6月と10月の年2回調査した。

イ 生物被害防除

7月と9月に1回ずつ計2回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、合計630件を燻蒸処理した。

4 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全5回開催した。

(ア) 「会津の修験—西会津町旧福寿院の宗教世界」

(イ) 「美しき刃たち—いわき編」

(ウ) 「祈りのふくしま5」

(エ) 「ふくしまの焼きもの2—会津本郷焼」

(オ) 「福島を伝える—震災とアート」

イ ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」と

して全21回開催した。

(ア) 「雛祭り与人形」

(イ) 「チャレンジ!今月の古文書 弥生編」

(ウ) 「東北初発見!オオミツパマツ」

(エ) 「復活!会津だるま」

(オ) 「文芸を好んだ会津の戦国武将・蘆名盛氏」

(カ) 「奥羽再仕置 430周年記念 蒲生氏郷軍、北へ」

(キ) 「くずし字に挑戦!①」

(ク) 「くずし字に挑戦!②」

(ケ) 「みんなの震災遺産」

(コ) 「会津若松と軍隊」

(サ) 「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」

(シ) 「発見!ハナワクジラ」

(ス) 「ふくしまを耕した古代の農具」

(セ) 「葬儀と民具」

(ソ) 「ヒト形の付いた縄文土器」

(タ) 「金属器を模倣した石器」

(チ) 「厄流しと宝船」

(ツ) 「くずし字に挑戦!③」

(テ) 「くずし字に挑戦!④」

(ト) 「暑さ寒さをしのご道具たち」

(ナ) 「くずし字に挑戦!⑤」

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和3年度は、3本の企画展示を開催した。

ア 春の企画展

「会津の絵画—福島県立博物館収蔵品を中心に—」

(ア) 会 期 令和3年4月24日(土)～6月27日(日)

開館日数 56日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 2,662人

(エ) 担当学芸員 美術分野:川延 安直、小林 めぐみ、塚本 麻衣子、原 恵理子

(オ) 趣 旨

戦国時代に会津も拠点として活動した画僧・雪村。

狩野探幽に学んだ会津藩お抱え絵師・加藤遠澤とその系譜の絵師たち。幕末に活躍した谷文晁門下の佐竹永海、遠藤香村。江戸から明治へ、戊辰戦争を生き延びた浦上秋琴、野出蕉雨。大正時代のアーティスト・イン・レジデンス、喜多方美術倶楽部に招かれた小川芋銭、森田恒友、石井柏亭。会津に生まれ会津を描いた坂内青嵐、湯田玉水、岩浅松石。

福島県立博物館がこれまで進めてきた会津ゆかりの絵画の調査研究、開催してきた展覧会による成果を総合し、当館に寄贈・寄託いただいた資料を中心に会津地方の近世・近代絵画を一堂にご覧いただいた。

(カ) 展示構成

近年当館にご寄贈いただいた雪村周継筆「瀟湘八景図帖」、加藤遠澤の「布袋山水図」を初め、遠澤に続く会津藩の御抱絵師の作品、萩原盤山、佐竹永海、遠藤香村ら会津出身、浦上秋琴ら会津ゆかりの近世の画人の作品、佐藤適圃、野出蕉雨ら近代まで活躍し地域で人気を博した画人の作品など、収蔵品（一部借用作品を含む）を中心とした関連資料 110 点を企画展示室、テーマ展示室「歴史・美術」で展示した。

(キ) 関連事業

a 「三の丸からプロジェクト まちなか連携事業 若松城下で味わう 会津の絵画・まちかたの暮らし」

会津若松市内の歴史的建造物を会場に会津の絵画を特別公開。歴史ある建物の空間で作品をご覧いただいた。

会場：若松城天守閣郷土博物館・福西本店・末廣酒造 嘉永蔵・竹藤

b 美術講座 美術談話 1「美術を社会に～喜多方美術倶楽部」

c 「会津の絵画」展あんな話こんな話

d 学芸員のおススメ特選解説会

上記 b～c の 2 件のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

イ 夏の企画展

「あはひのクニ あやかしのクニーふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異ー」

(ア) 会 期 令和 3 年 7 月 17 日(土)～9 月 26 日(日)
開館日数 63 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主催：福島県立博物館、福島民友新聞社、
福島中央テレビ

後援：株式会社リオン・ドールコーポレーション

協力：会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会

(エ) 入館者数 17,485 人

(オ) 担当学芸員 民俗分野：山口 拓
美術分野：塚本 麻衣子
考古分野：山本 俊
災害分野：弦巻 優太

(カ) 趣 旨

福島県内の様々な怪異・妖怪・幽霊に関する資料を通じて、私たちと異界との関わり的一端を紹介した。本展では福島をこの世とあの世の間にある「あはひのクニ」であり、それゆえに妖怪や幽霊がはびこる「あやかしのクニ」であると捉えてみた。これにより、一見学術的な対象になると思われづらい妖怪や幽霊を、その土地に根差した歴史や文化の一部として認識できるよう試みた。また、新型コロナウイルスの流行に伴って予言をする妖怪「アマビエ」に注目が集まったように、非常時に不思議なものにすがる人の心は前近代から大きく変わっていないように思われる。そうした心性を客観視し、現在も含めて探求する役割も博物館にはあるのではないかと。

博物館のライトユーザーに楽しんでいただけるテーマや切り口を用意しつつ、現代的な視点も含めながら福島県の歴史や文化の奥深さを感じられる企画展を目指した。

(キ) 展示構成

a あはひをつなぐモノ

「オシンメイサマ」(館蔵)、

「ナマハゲ資料」(秋田県男鹿市教育委員会蔵)ほか

b となりのあやかし

「百鬼夜行絵巻」(国立歴史民俗博物館蔵)、

「妖怪像」(湯本豪一記念日本妖怪博物館蔵)ほか

c あはひに落ちる人々

幽霊画(金性寺蔵)、山姥のかもじ(猪苗代町教育委員会蔵、当館寄託資料)ほか

d あやかしのクニ 会津

『老嫗茶話』(個人蔵)ほか

※ 展示資料 62 件(展示替え資料を含む)

(ク) 関連事業

a 会津若松市ナイトタイムエコノミー「ナイトタイムまちなか周遊企画 裏会津」7 月 17 日(土)～9 月 26 日(日)

b 「三の丸からプロジェクト まちなか連携事業 宵まち会津」

ウ 秋の企画展「ふくしま 藁の文化ーわらって、すげえんだがら」

(ア) 会 期 令和 3 年 10 月 9 日(土)～12 月 19 日(日)
開館日数 62 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 7,530 人

(オ) 担当学芸員 民俗分野：大里 正樹

(カ) 趣 旨

米づくりと共に生み出される藁(わら)は、多様な道具に使われる身近な素材である一方、しめ飾りにも使われるように神聖なものでもあった。大わらじや俵引き、村境を守るわら人形など、巨大なわら製品を作る祭りや行事は県内に広く見られる。本展では、わらを用いた多様な資料から、豊かな藁の文化をご紹介します。

た。また、福島県立博物館の誇る「東日本のわら人形コレクション」も一挙公開した。

(キ) 展示構成

- 導入展示 けんぱく田んぼ&日本科学未来館「ビューティフルライス」展
- 第1部 わらわら、神さま大集合！～東日本のわら人形コレクション～
- 第2部 “わら”う門には、福来たる～わらが支える年中行事～
- 第3部 なんてかんで、わら！～なつて・もじつて・編んで、暮らしの中のわら細工～

(ク) 関連事業

- a 日本科学未来館巡回展「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように～」
10月5日(火)～12月19日(日)
共催 日本科学未来館
- b 「バケツ稲と稲のはさがけ」
5月21日(金)～12月19日(日)
※バケツ稲5月21日(金)～10月15日(金)、
はさがけ10月5日(火)～12月19日(日)
- c 「みんなでつくった昔の「藁(わら)のたわし」～会津若松市立鶴城小学校5年生のみなさんのわら細工作品展示～」
11月28日(日)～12月19日(日)

(3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。令和3年度は、2本の特集展を開催した。

ア 特集展「貝殻パラダイス！」

- (ア) 会期 令和4年1月22日(土)～2月27日(日)
開館日数32日間
- (イ) 会場 企画展示室
- (ウ) 観覧者数 1,743人
- (エ) 担当学芸員 自然分野：相田 優
- (オ) 趣旨

貝殻は、そのさまざまな色彩や質感、かたちのおもしろさ、種類の多さ、扱いやすい大きさ、保存のしやすさなど数々の特徴により、貝殻収集家たちによって世界中から集められ、古くから多くの人々に親しまれてきた。一方で、貝殻の特徴をもとに貝類を分類する試み(貝殻学)も成立し、軟体動物学の一端を担ってきた。

今回の展示では、展示対象を海生貝類にしぼり、海的环境によって異なるさまざまな貝の種類を紹介すると共に、多くの貝殻に親しむことで、観覧者に貝類の多様性を認識してもらい、ありのままの自然を保っていく上での自然保護の大切さについて関心を誘うことを目標とした。

(カ) 展示構成

- I さまざまな貝のすがた(大きな貝たち、ふしぎなかたちの貝たち、これも貝のなかま)

- II 美しい貝(オキナエビスのなかま、ヒオウギ、タカラガイのなかま、イモガイのなかま)
 - III 貝の生活(潮間帯や浅い岩場に住む、深い岩場や岩礫底に住む、干潟や内湾の砂泥底に住む、砂浜に住む、深い砂泥底に住む、深海に住む・冷たい北の海に住む、サンゴ礁に住む)
 - IV 浜辺で拾った貝殻(福島の浜辺、新潟の浜辺)
 - V 貝を食べる
- ※ 主な展示資料：オオシャコガイ、ホラガイ、スケーリーフット(福島県初公開)ほか、出品件数800件

(キ) 関連事業

実技講座、講演会、ワークショップ、展示解説会等、合計5回の行事を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、開幕初日の展示解説会以外、中止とした。

- イ 特集展「そなえの芽 災害から考える あしたの暮らし」
- (ア) 会期 令和4年2月11日(金・祝)～3月27日(日)
開館日数38日間
- (イ) 会場 収蔵資料展示室
- (ウ) 観覧者数 2,094人
- (エ) 担当学芸員 震災遺産保全チーム担当学芸員
- (オ) 趣旨

震災遺産を活用した学校など教育現場での防災講座やワークショップなどへの展開を視野に入れて、展示でいかに自分事化することができるかを目的として本展示を構成した。震災遺産と問いを合わせることで、人の語りに頼らない災害伝承の持続可能性の獲得を目指すことも本展示の狙いの一つとなった。来館者からのアンケートを展示に活用し、参加型対話形式の展示をめざした。

(カ) 展示構成

- 自然の恵み
- 地震へのそなえ ～おちない・たおれない・うごかない～
- 津波へのそなえ ～津波から逃げる～
- 避難所の暮らし ～知恵を絞って困難を乗り越える～
- 家庭のそなえ ～家庭のそなえを考える～
- 原子力発電所事故
- 防災講座、防災ワークショップの紹介
- 出品点数40件

(キ) 関連事業

防災講座ワークショップ「さすけなぶる」、防災工作ワークショップ「たのしいそなえ」、見どころ解説会を実施した。防災教育ワークショップ「震災遺産を活用した授業づくり」は新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン開催に変更して実施し、防災工作ワークショップ「楽しい備え」は会津若松市にまん延防止等重点措置が適用されたことを受けて中止とした。

(4) 指定文化財の公開

令和3年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア 国指定

〈重要文化財〉

(ア) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会（福島県）

（総合展示室：原始にて展示公開）

イ 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

(ア) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県

(イ) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点 いわき市

(ウ) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市

(エ) 森北1号墳出土品のうち 石製品及び鉄製品 4点 会津坂下町

（以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開）

(オ) 関下人形 5点 個人

(カ) 長谷部家文書のうち「怪事雑話 卷之四・卷之五」1点 個人・福島県歴史資料館寄託

（以上2件は、企画展「あはひのクニ あやかしのクニーふくしま・東北の妖怪・幽霊・怪異」にて展示公開）

(5) 展示解説

ア 展示解説員

令和3年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。

前年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大にともない、接触の多い様々な場所や物への消毒作業、来館者の密を避けるための展示室内の人数管理、さらに設定人数を超過した場合の人数制限措置の実施などを継続した。

本来の業務が大幅に制限される状況が続いたが、口頭での展示解説の代替策として普段多く寄せられる質問をQ&A形式でデジタルサイネージを使って表示したほか、今年度は学校団体に限りマイクを使用した通し解説を試行的に再開した。体験学習室では折り紙など持ち帰ることのできる玩具を活用すると共に、着付け体験のできない時代衣装はマネキンに着せて展示するなどの工夫をした。また解説員がそれぞれ展示コーナーを選んで解説動画の収録を行い、今後の活用方法を検討した。

イ 学芸員

企画展及び特集展の開催中は、職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。令和3年度は年間502回を数えた。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を受け、企画展・特集展の展示室における展示解説は原則として休止し、代替措置として講堂でのパワーポイントを使用した「見どころ解説会」を開催した。感染状況が落ち着いていた春季企画展「会津の絵画」では、少人数での展示解説を試行することができたが、続く企画展・特集展では感染拡大状況を考慮し、中止とせざるをえなかった。また、常設展示室におけるポイント展ミニ解説会は平日実施とし、少人数・事前予約制で開催した。

(6) 体験学習室

エントランスホール隣の無料空間に位置し、さまざまな体験を提供する場として設置されたスペース。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、前年度から引き続き、時代衣装の着付けや昔のおもちゃ遊び等といった物や人の接触を多く伴う利用については中止となった。そのため、各種展示やワークショップの成果発表の場、職員が常駐できるイベント等の会場として恒常的に開室するという形をとることとなった。

展示については、夏の企画展開催中には、ワークショップで参加者が制作した妖怪の絵を会期中に展示した。また、同ワークショップの手法を援用した会津若松ザベリオ学園小学校との協働における制作物の展示も行った。秋の企画展開催中には、鶴城小学校と連携して行った「バケツ稲」の成果や児童が育成した稲藁を用いて製作したわら細工の展示を行った。さらに、当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会と、当館が協力し企画運営している福島県の文化事業・福島芸術計画が、福島県立会津支援学校と連携して実施したワークショップ成果作品の展示も行った。

ワークショップについては、会津大学短期大学部教育学科との連携により、コロナ禍であっても創造的な時間を参加者に用意することができた。また「三の丸からプロジェクト」における体験型プログラムや、同プロジェクトの「雪国ものづくりマルシェ」のワークショップの会場として賑わいを創出することもできた。

5 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和3年度は以下の7テーマの調査を実施した。

ア 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古分野

(イ) 調査概要

前年度に引き続き、県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。県指定重要文化財の泉崎村原山1号墳出土埴輪（館蔵）のうち、円筒埴輪の3D計測を実施し、県内の出現期の形象埴輪群の詳細

観察・比較が可能となるデータ整備を推進した。

イ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 民俗・考古・歴史・自然・災害分野

(イ) 調査概要

特集展の実施を見据え、ポイント展では観覧者の参加を意識し、付箋に感想を書いてもらいそれを掲示した。多くの意見が寄せられ、震災遺産活用の新たな展開だとの意見もいただいた。会津教育事務所や防災教育に関心ある教員との意見交換等から、震災遺産と問いを使った災害伝承の持続可能について検討を開始することができた。現代資料の活用として、大学・高校等での授業を実施することができた。またベンチャー企業と協働して、震災遺産の3DCG化や、メタバースでの実験など最新技術を活用した資料活用の試行を行った。学校の先生へのインタビューを協働して取りまとめ、冊子化するために編集作業等を行った。

ウ 浜通りにおける古生代大型化石の研究

(ア) 分野 自然分野

(イ) 調査概要

化石産地の現地調査を行い、新たに古生代大型化石を採取した。学術的価値の検討のため、浜通り産古生代微化石と中生代大型化石についても検討した。

エ 福島県成立前後の近代資料の調査研究

(ア) 分野 歴史分野

(イ) 調査概要

前年度に続きコロナ禍であることを考慮して、個人の古文書所有者のもとを直接訪問する調査は積極的には実施しなかった。令和3年度は、主に旧吉田村(現福島県会津美里町)の村会の記録や戸長役場文書を解読・研究した。さらなる事例の蓄積が必要であるが、明治10年代の村政の状況が明らかとなった。成果は歴史講座やポイント展等で公表する。

オ 収蔵資料活用に向けた本県蕈文化の研究

(ア) 分野 民俗分野

(イ) 調査概要

本年度は、県内各地での行事調査を継続、調査成果について企画展「ふくしま 蕈の文化」の図録や展示へと活かした。4月には田村市(朴橋・屋形・堀越)のお人形様行事調査、7月には伊達市保原のつつこ引き行事調査、また県外調査として館蔵資料の「秋田県大館市山田のジンジョサマ」「秋田県横手市末野のショウキサマ作り・カシマ流し」の現状調査をそれぞれ行った。特に5～7月にかけては福島市・信夫山の大わらじについて制作者団体である御山敬神会の協力を得て、展示用資料として現物の大わらじの4分の1サイズ(3メートル)の大わらじを製作依頼し、資料として収集・展示した。その他、つつこ引きの「つつこ」(4分の1模型、伊達市)、「カシマ流しの舟とカシマ人形」(秋田県横手市末野)などの資料を新たに収集することができ、資料の充実に資した。

カ 神社仏閣に伝世する料紙に関する研究

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 調査概要

只見町教育委員会保管の伝世資料について、料紙調査及び保存状態調査を実施した。

キ 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術分野

(イ) 調査概要

会津地方の南エリア・南会津町薬師寺の薬師如来像、阿弥陀如来像の調査を実施。仏像の保存状態の現状を確認した。調査結果等を令和4年度の美術講座で報告する計画を立てた。西エリア・金山町宮崎観音堂の修理に伴い、本尊の観音菩薩像の調査を実施。仏堂修理の間、観音菩薩像の寄託を受け、調査結果等をテーマ展「祈りのふくしま5」で紹介した。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

令和3年度は、石井健司家・山谷幸枝家・笠間せい子家・坂内利子家資料の整理を行い、このうち石井健司家・山谷幸枝家・笠間せい子家資料については登録まで終了した。また登録済みだが、未公開であった松崎達夫家寄贈資料(若松城下薬種問屋資料)を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

(ア) 印刷物(単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

猪瀬 弘瑛『アンモナイト合戦』福島県立博物館

猪瀬 弘瑛・福島県立博物館友の会化石鉱物探検隊「福島県郡山市湖南町に分布する中新統大久保層から産する化石について」『福島県立博物館紀要』第36号

猪瀬 弘瑛・久保 貴志・菜花 智・いわき自然史研究会「福島県いわき市の双葉層群玉山層から産するコンボウガキ *Konbostrea konbo* の産状」日本古生物学会 2021 年年会講演予稿集

主森 亘・久保 貴志・猪瀬 弘瑛・藤田 英留「福島県東白川郡塙町に分布する中新統久保田層から鱈脚類の産出」『福島県立博物館紀要』第36号
望月 貴史・猪瀬 弘瑛「福島県いわき市の双葉層群足沢層から産出した生痕化石 *Helminthopsis* について」『福島県立博物館紀要』第36号

内山 大介・本間 宏「福島県と災害の10年Ⅱ 震災・原発被災と博物館」『文化財保存修復学会第43回大会研究発表集』pp. 364-365

内山 大介『福寿院の文化財と宗教世界—旧修験高橋家所蔵修験資料—』高橋行雄発行 pp. 1-24

内山 大介・辻本 侑生『山口弥一郎のみた東北—津波研究から危機のフィールド学へ—』文化書房博文社

内山 大介「福島県における民俗研究の歩みと県立博物館」『福島の民俗』50号 福島県民俗学会 pp. 65-73

内山 大介「震災・原子力災害後の博物館の10年とこれから—資料と活動の継承に向けて—」『ミュゼ』VOL. 128 アム・プロモーション pp. 14-151

大里 正樹編『ふくしま 蕈の文化〜わらって、すげえんだがら!!〜』福島県立博物館

大里 正樹「会津だるまの復活に向けて」『だるまニュース』54号 全日本だるま研究会

川延 安直・小林 めぐみ「震災・原発事故からの学びがもたらす社会再生・ミュージアムの役割」『環境情報科学』50-2 一般社団法人環境情報科学センター

Shigeru Sugawara, Sahoe Sugizaki, Yoshihiko Nakayama, Hideya Taniguchi, Ichiro, Ishimaru Preliminary study for detection of adhesive on a painted ceramic plate and varnish on printed paper using near-infrared hyperspectral imaging at wavelengths of 1.0-2.35 μm , *Infrared Physics & Technology*, Vol. 117

小林 めぐみ「未来を創る装置としてのミュージアムの可能性—ライフミュージアムネットワークの実践から」『現代の図書館』vol159no1 日本図書館協会

高橋 充「鳴山城」「駒寄城・西館」「久川城」「破城の作法と古城」飯村均・室野秀文編『続・東北の名城を歩く 南東北編 宮城・福島・山形』p. 111-121、183 - 184 吉川弘文館

高橋 充・時枝 務「信夫山頂遺跡出土品の研究(8)」『福島県立博物館紀要』36 p. 13 - 26 福島県立博物館

高橋 充・渡邊 明「会津の医学史—中世・近世の医師に関する史料を中心に—」『福島県立博物館紀要』36 p. 37 - 56 福島県立博物館

田中 敏「磨消擬縄文長頸壺形土器(福島県大沼郡会津美里町五本松遺跡出土)」『国華 特輯弥生土器』第1508号 p. 52-53 国華社

吉田 純輝・猪瀬 弘瑛・菜花 智・真鍋 真「福島県いわき市の上部白亜系・双葉層群玉山層から産出した小型の鳥脚類恐竜」日本古生物学会第171回例会講演予稿集

Yoshida, Junki, Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. A new goniopholidid from the Upper Jurassic Morrison Formation, USA: novel insights into aquatic adaptation toward modern crocodylians. *Royal Society Open Science* 8(12): 210320.

Yoshida, Junki, Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. Taxonomy of a new goniopholidid specimen from the Upper Jurassic Morrison Formation and their diversity in North America. Abstract Book of 9th Annual meeting of Canadian Society of Vertebrate Palaeontology.

Yoshida, Junki, Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. Morphology and anatomy of hyoid apparatus in crocodylians: the origin of the gulag valve in Neosuchia. Abstracts of 81th Annual meeting of Society of Vertebrate Paleontology.

(イ) 学会発表

猪瀬 弘瑛・久保 貴志・菜花 智・いわき自然史研究会「福島県いわき市の双葉層群玉山層から産するコンボウガキ *Konbostrea konbo* の産状」

日本古生物学会 2021 年年会 (オンライン開催)

村宮 悠介・猪瀬 弘瑛・歌川 史哲・相場 大佑・安藤 寿男・大森 光「上部白亜系双葉層群足沢層から産出したコニアシアンのアノモノイド」

日本古生物学会 第171回例会 (オンライン開催)

内山 大介「職場としての博物館・公務としての民俗学—『学芸員は研究者なのか』を考える—」現代民俗学会第56回研究会「民俗学者の『生きる方法』—若手研究者向けキャリア支援企画—」オンライン開催

内山 大介「山口弥一郎がいわきに残したもの—磐城高等女学校と磐城民俗研究会—」いわき市暮らしの伝承郷講座、於：いわき市暮らしの伝承郷

内山 大介「震災・原子力災害後の博物館の10年とこれから—資料と活動の継承に向けて—」ICOM-DRMC (国際博物館会議博物館防災国際委員会) 東日本大震災10周年シンポジウム「市民と博物館がまもり、つなぐふるさとの宝—東日本大震災後10年目における博物館活動の再生と創造—」於：陸前高田市コミュニティホール

内山 大介・榎村 賢二「民具を語る9・10 会津鋸 I・II」神奈川大学日本常民文化研究所 YouTube チャンネル

内山 大介「震災をめぐるモノと物語の継承—博物館学芸員と東日本大震災—」日本口承文芸学会第81回研究例会「東日本大震災から11年—震災をめぐる現場の声と研究者—」オンライン開催

大里 正樹「会津だるまとその復元について」、「会津だるまを語る会」於：たけとう茶屋

大里 正樹「講演 ふくしまの蕈の文化」「まちなか案内人養成講座」於：福西本店

小林 めぐみ「地域と小学校とミュージアム ライフミュージアムネットワーク 2020 の浪江町立津島小学校との協働から」2021 年度地域歴史資料継承領域第 6 回研究会震災後のふくしまの新たな取り組みに学ぶ（オンライン開催）

杉崎 佐保恵「古器旧物保存方太政官布告より 150 年—明治時代における文化財保護のあゆみ—」『文化財保存修復学会第 43 回大会研究発表要旨集』p. 372-375（紙面開催）

高橋 充「会津」宇都宮・会津仕置 430 周年記念シンポジウム「宇都宮・会津仕置の諸問題」
於：大田原市那須与一伝承館

高橋 満「中才遺跡出土の製塩土器を考える」仙台市縄文の森広場 春のコーナー展示「東北の縄文遺跡—南相馬市中才遺跡」関連講座（オンライン開催）

筑波 匡介「ふくしま学（楽）会」話題提供 第 2 部「福島を経験を学び、語り継ぐ枠組みを考える」パネルディスカッション 早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・早稲田大学レジリエンス研究所（WRRI）

筑波 匡介 報告とディスカッション ぼうさいこくたい 2021 災害伝承ミュージアム・セッション vol.3 2021 経験の伝承・次の災害への備え。啓発の新たなチャレンジ 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

吉田 純輝・猪瀬 弘瑛・菜花 智・真鍋 真
「福島県いわき市の上部白亜系・双葉層群玉山層から産出した小型の鳥脚類恐竜」日本古生物学会第 171 回例会（オンライン開催）

イ 他団体による委嘱等

阿部 綾子：相馬市史編さん調査執筆員ほか 3 件
猪瀬 弘瑛：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

内山 大介：郡山市文化財保護審議会委員ほか 11 件
大里 正樹：会津坂下町史編さん専門委員ほか 7 件
川延 安直：喜多方市美術館収集委員会委員ほか 8 件
栗原 祐斗：熊谷市史編集委員

小林 めぐみ：福島芸術計画運営委員会委員ほか 10 件
杉崎 佐保恵：文化財保存修復学会第 43 回大会実行委員
高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員ほか 14 件
高橋 満：富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員ほか 1 件

田中 敏：会津坂下町史編さん委員ほか 4 件
塚本 麻衣子：喜多方市文化財保護審議委員ほか 1 件
筑波 匡介：長岡造形大学非常勤講師ほか 3 件
山口 拓：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員

ウ 研究助成金等

杉崎 佐保恵：古墳時代の金属製象嵌製品の製作技法の解明と保存修復のための診断技術の確立

高橋 満：科研費・基盤研究（C）「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基礎的研究」研究代表者

高橋 満：科研費・基盤研究（A）「日本列島における製塩技術史の解明」研究分担者

吉田 純輝：科研費・若手研究「鳥類固有の発声器の発生学的研究～「鳴管」の形態形成機構と起源の解明～」研究代表者

6 教育普及事業

(1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演会等を実施している。令和 3 年度の各講座開催数は 112、総参加者数は 3,839 人であった。

ア 令和 3 年度講座・講演会等行事一覧

(ア) 特別講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別講座①「詩人のいる博物館 あはひのはなし『遠野物語』から 2021 年まで」	和合 亮一（詩人） 土方 正志（荒蝦夷 代表）	令和 3 年 9 月 25 日（土）	49
特別講座②「詩人のいる博物館 写真の力／言葉の力」	和合 亮一（詩人） アイリーン・美緒子・スミス （写真家・環境ジャーナリスト）	令和 4 年 1 月 15 日（土）	29
特別講座③「詩人のいる博物館 ふくしまを書く」	和合 亮一（詩人） 古川 日出男（小説家）	令和 4 年 3 月 5 日（土）	78

(イ) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
歩いて学ぶ会津大塚山古墳	平澤 慎（学芸員）	令和 3 年 11 月 23 日（火・祝）	17
勾玉をつくろう	田中 敏（学芸員）・平澤 慎（学芸員）	令和 4 年 3 月 26 日（土）	8

(ウ) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
記録映像で見るふくしまの暮らし①		令和3年12月19日(日)	13
記録映像で見るふくしまの暮らし②		令和4年1月16日(日)	11
記録映像で見るふくしまの暮らし③		令和4年2月20日(日)	16
記録映像で見るふくしまの暮らし④		令和4年3月20日(日)	8

(エ) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
はじめてさんの古文書講座①「辞書と友だちになろう」	栗原 祐斗 (学芸員)	令和3年7月11日(日)	41
はじめてさんの古文書講座②「古文書を読んでみよう」	栗原 祐斗 (学芸員)	令和3年7月25日(日)	38
かじったさんの古文書講座①「その政宗文書は、本当に正しいか？」	高橋 充 (学芸員)	令和3年11月14日(日)	27
かじったさんの古文書講座②「秀吉文書は、どうして大きいのか？」	高橋 充 (学芸員)	令和3年11月28日(日)	24

(オ) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
鶴ヶ城の野鳥	古川 裕司 (野鳥研究家)	令和3年11月7日(日)	16

(カ) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
古器旧物保存方太政官布告150年 明治時代より文化財保護のあゆみをふりかえる	杉崎 佐保恵 (学芸員)	令和3年11月27日(土)	5

(キ) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
美術放談2「払うモノ 浄めるモノー武器の真髄」	小林 めぐみ・塚本 麻衣子 (学芸員)	令和3年8月27日(金)	6
美術放談3「自然への憧憬」	川延 安直 (副館長) 塚本 麻衣子 (学芸員)	令和3年9月24日(金)	15
福島のお像を修復してみよう	松岡 誠一 (仏像文化財修復工房代表)	令和3年10月3日(日)	33
やさしい焼きもの講座「会津本郷焼の魅力」	弓田 修司 (会津本郷焼事業協同組合 代表理事)	令和3年11月13日(土)	16
美術放談4「暮らしの中の文様・図様」	川延 安直 (副館長) 小林 めぐみ・原 恵理子 (学芸員)	令和3年11月26日(金)	17
美術放談5「震災とアート」	川延 安直 (副館長) 小林 めぐみ (学芸員)	令和4年3月25日(金)	32

(ク) 防災講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
楽しいそなえ	筑波 匡介 (学芸員)	令和3年9月1日(水)	8
世界津波の日に読み直す・山口弥一郎『津浪と村』	内山 大介 (学芸員)	令和3年11月5日(金)	21

(ケ) 企画展・特集展関連行事

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展「会津の絵画」内覧会 (友の会・報道向け)		令和3年4月23日(金)	17
学芸員のお気に入り特選解説会	川延 安直 (副館長)	令和3年5月1日(土)	8
「会津の絵画」展 よもやま話	川延 安直 (副館長)	令和3年5月1日(土)	23
学芸員のこだわり特選解説会	川延 安直 (副館長)	令和3年6月12日(土)	10
「会津の絵画」展 こぼれ話	川延 安直 (副館長)	令和3年6月12日(土)	23
企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」オープニングセレモニー・内覧会 (友の会・報道向け)		令和3年7月17日(土)	40

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
講演会「幽霊や妖怪、それっていったいナニ?～見えないものを言葉にする、見えないものを見る化する～」	岡野 定丸 (福島市松川 盛林寺住職)	令和3年7月17日(土)	62
企画展「あはひのクニ あやかしのクニ」展示解説会	当館学芸員	令和3年7月18日(日) 令和3年7月23日(金・祝) 令和3年8月9日(月・祝) 令和3年8月28日(土) 令和3年9月23日(木・祝) 令和3年9月26日(日)	23 35 33 28 25 31
ワークショップ「オリジナル妖怪○○○を描こう」	会津美術協会のみなさん 関本 創 (妖怪博士)	令和3年7月22日(木・祝) 令和3年8月15日(日) 令和3年9月4日(土)	19 13 5
講演会「みちのく怪談の魅力」	黒木 あるじ (怪談作家)	令和3年8月14日(土)	47
講演会「もののけ、幽霊、妖怪の日本史」	小山 聡子 (二松学舎大学文学部教授)	令和3年9月4日(土)	70
松原タニシトークライブ「あはひの存在と事故物件のあやかし」	松原 タニシ (事故物件住みます芸人)	令和3年9月19日(日)	97
企画展「ふくしま 蕁の文化」内覧会 (友の会・報道向け)		令和3年10月8日(金)	18
企画展「ふくしま 蕁の文化」見どころ解説会	大里 正樹 (学芸員)	令和3年10月9日(土) 令和3年10月23日(土) 令和3年11月6日(土) 令和3年12月4日(土) 令和3年12月11日(土) 令和3年12月18日(土) 令和3年12月19日(日)	21 13 8 1 7 15 10
講演会「神と人とをつなぐ蕁の文化ー秋田人形道祖神プロジェクト (ANP) ×福島県立博物館ー」	小松 和彦 (小松クラフトスペース) 宮原 葉月 (イラストレーター)	令和3年11月3日(水・祝)	41
講演会「縄文の時代より続いてきている『蕁の文化』ー福島県内の取組みから学ぶー」	宮崎 清 (千葉大学名誉教授、三島町名誉町民)	令和3年11月20日(土)	68
実演「天栄村湯本の蕁のこと」	星崎 奈美 (ワラ工房・茂次郎)	令和3年11月23日(火・祝)	36
特集展「貝殻パラダイス」内覧会 (友の会・報道向け)		令和4年1月22日(土)	6
特集展「貝殻パラダイス」展示解説会	相田 優 (学芸員)	令和4年1月22日(土)	6
特集展「そなえの芽」内覧会 (友の会・報道向け)		令和4年2月11日(金・祝)	2
防災教育ワークショップ「震災遺産を活用した授業づくり」	関谷 央子 (防災教育コーディネーター)	令和4年2月12日(土)	4416
特集展「そなえの芽 ～災害から考えるあしたの暮らし～」展示解説会	筑波 匡介・弦巻 優太 (学芸員)	令和4年3月11日(金)	11
防災講座ワークショップ「さすけなぶる」	鈴木 里美 (日本防災士会福島県支部 防災士)	令和4年3月12日(土)	11
防災工作ワークショップ「たのしいそなえ」	筑波 匡介・弦巻 優太 (学芸員)	令和4年3月27日(日)	8

(ロ) ポイント展ミニ解説会

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ポイント展「東北初発見! オオミツバマツ」ミニ解説会	猪瀬 弘瑛 (学芸員)	令和3年4月18日(日)	19
ポイント展「文芸を好んだ会津の戦国武将・蘆名盛氏」「奥羽再仕置 430周年記念 蒲生氏郷軍、北へ」ミニ解説会	高橋 充 (学芸員)	令和3年6月20日(日)	16
ポイント展「くずし字に挑戦! ①」ミニ解説会	阿部 綾子 (学芸員)	令和3年6月27日(日)	12
ポイント展「みんなの震災遺産」ミニ解説会	筑波 匡介 (学芸員)	令和3年7月4日(日)	2
ここがポイント! 部門展示室・考古「会津大塚山古墳」ミニ解説会	平澤 慎 (学芸員)	令和3年7月11日(日)	35
ポイント展「復活! 会津だるま」ミニ解説会	大里 正樹 (学芸員)	令和3年7月18日(日)	13

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ポイント展「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」ミニ解説会	友の会化石鉱物探検隊のみなさん	令和3年8月8日(日)	2
ポイント展「会津若松と軍隊」ミニ解説会	栗原 祐斗(学芸員)	令和3年8月15日(日)	10
ポイント展「くずし字に挑戦!②」ミニ解説会	阿部 綾子(学芸員)	令和3年8月29日(日)	18
ポイント展「発見!ハナワクジラ」ミニ解説会	猪瀬 弘瑛(学芸員)	令和3年9月5日(日)	8
ポイント展「ふくしまを耕した古代の農具」ミニ解説会	山本 俊(学芸員)	令和3年9月19日(日)	6
ポイント展「葬儀と民具」ミニ解説会	山口 拓(学芸員)	令和3年10月3日(日)	9
ポイント展「ヒト形の付いた縄文土器」ミニ解説会	高橋 満(学芸員)	令和3年10月24日(日)	10
ポイント展「くずし字に挑戦!③」ミニ解説会	阿部 綾子(学芸員)	令和3年10月31日(日)	12
ポイント展「金属器を模倣した石器」ミニ解説会	田中 敏(学芸員)	令和3年11月14日(日)	6
ポイント展「厄流しと宝船」ミニ解説会	内山 大介(学芸員)	令和3年11月28日(日)	3
ポイント展「くずし字に挑戦!④」ミニ解説会	阿部 綾子(学芸員)	令和3年12月5日(日)	16
ポイント展「暑さ寒さをしのご道具たち」ミニ解説会	江川 トヨ子(学芸員)	令和4年1月23日(日)	4

(サ) ミュージアムイベント

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
けんぱく映画会「カップの三平」		令和3年8月7日(土)	73
夏休みナイトミュージアム	当館学芸員	令和3年8月21日(土)	78
けんぱくクリスマスコンサート	秋本 悠希(声楽)、本山 乃弘(ピアノ)	令和3年12月12日(日)	86

(シ) 子育て世代対応事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館でもよみきかせ	おはなしのへや/たんぼぼの会	令和3年4月10日(土)	25
	手作り絵本の会	令和3年6月12日(土)	9
	ハーモニー/当館学芸員	令和3年7月10日(土)	28
	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	令和3年8月7日(土)	36
	マザーグース/おはなしの会ゆがわ	令和3年9月11日(土)	25
	坂下町読み聞かせの会	令和3年10月9日(土)	18
	おはなしのへや/当館学芸員	令和3年11月13日(土)	6
会津大学短期大学部幼児教育学科/当館学芸員	令和4年1月8日(土)	10	
こどもミニミニはくぶつかん		令和3年5月2日(日)	85
ワークショップ「ノコリノカタチ ウマレルカタチ ~木片をつかってつくろう!~」	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	令和3年5月2日(日)	18
親子で探検!博物館のウラ側	当館学芸員	令和3年8月22日(日)	28
あそびワークショップ with 会津短大	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	令和4年3月26日(土)	17

(ス) 三の丸からプロジェクト

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
まちなか連携事業「宵まち会津 山田広野の納涼蔵出し大活弁」	山田 広野(活弁士)	令和3年8月14日(土)	19
まちなか連携事業「宵まち会津 山田広野の納涼あやかし大活弁」	山田 広野(活弁士)	令和3年8月28日(土)	21
まちなか連携事業「宵まち会津 会津怪談録・令和ノ変」	黒木 あるじ(怪談作家)	令和3年9月11日(土)	16
まちなか連携事業「宵まち会津 語りで繋ぐみちのくの妖怪」	ゆうか(妖怪朗読家)	令和3年9月18日(土)	13
雪国ものづくりマルシェ		令和3年10月10日(日)	1,088
体験型プログラム「織元にきく!会津木綿のお話-綿と現在、そしてこれから-	山田 悦史(山田木綿織元) 原山 修一(株式会社はらっぱ) 谷津 拓郎・千葉 崇(株式会社 IIE)	令和3年11月3日(水・祝)	14

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
体験型プログラム「ワークショップ 会津木綿のハギレではたきをつくろう！」	株式会社はらっぱの皆さん	令和3年11月6日(土)	18
体験型プログラム「ワークショップ またたびランチョンマットをつくろう」	市川 里美 (またたび工房・癒里)	令和3年11月20日(土)	6
体験型プログラム「実演 演武！AIZU 居合道」	國分 修一・猪俣 伊祐 (福島県剣道連盟 会津若松居合道部会)	令和3年12月4日(土)	17
体験型プログラム「ワークショップ またたびストラップをつくろう」	市川 里美 (またたび工房・癒里)	令和3年12月5日(日)	13
体験型プログラム「実演 演武！AIZU 居合道」	國分 修一・猪俣 伊祐 (福島県剣道連盟 会津若松居合道部会)	令和3年12月18日(土)	40

(セ) 特別プログラム

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館を利用した学び研修会	当館学芸員	令和3年11月25日(木)	10

(ソ) 共催事業

テーマ	主催	期日	参加人数
実技講座「鉱物標本をつくろう！」	博物館友の会化石鉱物探検隊	令和3年8月8日(日)	11

(タ) 後援事業

テーマ	主催	期日	参加人数
鈴善漆器店国有形文化財登録竹藤リニューアルー周年記念座談会	若松商家めぐりの会	令和3年10月2日(土)	26
会津民俗研究会 講演会	会津民俗研究会	令和4年3月19日(土)	43
中世考古学の世界	東北中世考古学会・東国中世考古学研究会	令和4年3月20日(日) ～3月21日(月・祝)	80

(チ) ライフミュージアムネットワーク事業

テーマ	主催	期日	参加人数
ラウンドテーブル「開く、ミュージアム」	柳沢 秀行 (大原美術館学芸統括) 楠本 智郎 (つなぎ美術館主幹・学芸員) 岡村 幸宣 (原爆の図丸木美術館学芸員) 川延 安直 (副館長)	令和4年1月23日(日)	53

(ツ) 友の会事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
友の会第1回講演会「会津の大地が震えた日ー410年前の慶長会津地震をふりかえるー」	竹谷 陽二郎 (磐梯山ジオパーク協議会) 高橋 充・筑波 匡介 (学芸員)	令和3年12月16日(木)	100
友の会総会・第2回講演会「法正尻遺跡から縄文時代の生活を見ると」	松本 茂 (日本考古学協会会員)	令和4年3月13日(日)	73

(2) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア 展示室での自主学習 (しおり・ワークシート)

新型コロナウイルス感染防止対策として、展示室での密集を避けられるよう常設展示室を個人で見学できるワークシート(「キミだけの「たからもの」をさがそう!」)を当館ホームページで公開し、あらかじめダウンロードしていただけるようにしている。

イ 学習プログラム

今年度も、課外授業・修学旅行の学校団体に対応し、常設展示の見どころや概要を伝える学習講座を多数開催した。特に小学生の場合は歴史学習に触れて間もないため、どうしても観覧の仕方が散漫になってしまう場合が多い。事前に観覧のポイントが押さえられることで、学習効果が高まることも期待され、学校団体からの依頼も多い。また、支援学校や未就学児の教育・保育施設(幼稚園・こども園等)といった団体に対しては、児童・生徒の理解度や興味関心に即した独自のプログラムを作成し提案している。

ウ 指導者向け研修

今年度は「博物館を活用した学びプログラム研修会」と題し、当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムや協働の事例を紹介した。博物館のもつ多様な学習プログラムを伝えることで、当館の学校や公民館における活用の推進を図った。教員及び各市町村の生涯学習に携わる方の参加がみられた。

・令和3年11月25日(木) 10名の参加

エ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活

動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、貸出事業は停止となった。またこれを機に、各分野にて貸出用用具・教材の見直しを図り、再開への準備を整えた。

オ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和3年度の実施回数は21回で、参加者は1,983人であった。

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目
令和3年6月23日(水)	高橋 満 平澤 慎	考古	四徳田古墳出土品体験学習	中島村立滑津小学校 中島村立吉子川小学校 中島村立中島中学校	小学6年、中学1年 総合的な学習の時間
令和3年7月2日(金)	相田 優	自然	石はどうやってできるのだろう	学校法人慈光こども園 (慈光第二こども園と合同)	
令和3年9月9日(木)	平澤 慎	考古	会津大塚山古墳	会津若松市立第四中学校	1年生 総合的な学習の時間
令和3年9月16日(木)	栗原 祐斗		博物館のはたらきと学芸員の 仕事	会津若松ザベリオ学園 小学校	4年生 総合的な学習
令和3年10月6日(水)	筑波 匡介 弦巻 優太	災害	防災講座	会津若松市立行仁小学校	4年生 総合的な学習の時間
令和3年10月12日(火)	筑波 匡介 弦巻 優太	災害	震災遺産講座	喜多方市立第一中学校	1年生 総合的な学習の時間
令和3年10月13日(水)	弦巻 優太	災害	防災講座	会津若松市立一箕小学校	4年生 総合的な学習の時間
令和3年10月15日(金)	筑波 匡介 弦巻 優太	災害	震災遺産講座	喜多方市立第一中学校	2年生、3年生 総合的な学習の時間
令和3年10月26日(火)	筑波 匡介	災害	防災講座	会津美里町立新鶴中学校	全学年 総合的な学習の時間
令和3年11月10日(水)	筑波 匡介	災害	防災講座	会津若松市立第二中学校	全学年 総合的な学習の時間
令和3年11月10日(水)	筑波 匡介 弦巻 優太	災害	防災講座	福島市立中野小学校	2～6学年 総合的な学習の時間
令和3年11月15日(月)	筑波 匡介	災害	避難所設営訓練	喜多方市立第一中学校	全学年 総合的な学習の時間
令和3年11月17日(水)	小林 めぐみ		キャリアガイダンス	福島県立橘高等学校	1学年
令和3年11月24日(水)	筑波 匡介	災害	防災教育体験活動	郡山市立小原田小学校	6学年 総合的な学習の時間
令和3年11月30日(火)	筑波 匡介	災害	防災講座「避難所で中学生が できること」	柳津町立会津柳津学園 中学校	全学年 総合的な学習の時間
令和4年2月17日(木)	筑波 匡介 弦巻 優太	災害	震災遺産講座	大熊町立大熊中学校	全学年 総合的な学習の時間
令和4年3月8日(火)	筑波 匡介	災害	避難所設営訓練	会津若松市立第二中学校	3学年 社会科
令和4年3月9日(水)	筑波 匡介	災害	避難所で中学生ができること	会津若松市立第二中学校	全学年 総合的な学習の時間

カ 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和3年度は4校からの要請があり、受け入れを実施した。

○職場体験受け入れ実績（生徒のみ）

- ・福島県立会津支援学校竹田校 中学部
（2年生：1名） 2日間
- ・会津若松市立第一中学校（2年生：4名） 2日間
- ・三島町立三島中学校（2年生：1名） 1日間
- ・福島県立大沼高等学校（2年生：1名） 3日間

キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。

令和3年度は県内出身及び県内大学に在学する学生9名を受け入れた。

実習期間 令和3年8月24日(火)～29日(日)

(3) 生涯学習・研究支援

ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,788冊である。

イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数

考古：5件882点 歴史：17件567点 民俗：5件150点
美術：3件60点 計30件1,659点

ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。令和3年度の派遣回数は22回で、参加者は596人であった。

講師派遣一覧

月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
令和3年5月7日(金)	筑波 匡介	災害	震災遺産を考える	国立磐梯青少年交流の家
令和3年5月15日(土)	筑波 匡介	災害	震災遺産を考える	福島大学
令和3年5月29日(土)	高橋 満	考古	中才遺跡出土の製塩土器を考える	仙台市縄文の森広場
令和3年6月30日(水)	平澤 慎	考古	喜多方市灰塚山古墳について	喜多方市山都公民館
令和3年7月2日(金)	筑波 匡介	災害	震災遺産を考える	龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科
令和3年7月14日(水)	筑波 匡介	災害	震災遺産を考える	東北大学文学研究科・文学部 日本史研究室
令和3年9月3日(金)	筑波 匡介	災害	災害食づくり	北会津公民館
令和3年9月8日(水)	高橋 充	災害	福島県の城・町・博物館	福島県立医科大学
令和3年9月8日(水)	原 恵理子	美術	大堀相馬焼の歴史	大堀相馬焼協同組合
令和3年9月22日(水)	栗原 祐斗	歴史	福島県の観光の歴史	福島県立医科大学
令和3年10月3日(日)	内山 大介	民俗	山口弥一郎がいわきに残したもの ー磐城高等女学校と磐城民俗研究会ー	いわき市暮らしの伝承郷
令和3年10月3日(日)	阿部 綾子	歴史	会津藩士の謹慎ー若松開城から 斗南移住の間を追うー	喜多方市中央公民館
令和3年10月8日(金)	栗原 祐斗	歴史	戦時下の福島県	いわき市・いわき市生涯学習推進本部・ いわき市教育委員会
令和3年10月13日(水)	筑波 匡介	災害	震災遺産を考える	福島県立医科大学
令和3年10月20日(水)	小林 めぐみ	美術	教養の充実「暮らしを彩る器」	福島市三河台学習センター
令和3年10月27日(水)	原 恵理子	美術	焼きものの基本と会津本郷焼	福島県立医科大学
令和3年11月7日(日)	筑波 匡介	災害	福島県立博物館の震災遺産について	ぼうさいこくたい
令和3年11月12日(金)	吉田 純輝	自然	棚倉町の土地を学ぶ～足元にある 化石と断層～	棚倉町役場 地域創生課
令和3年11月30日(火)	塚本 麻衣子	美術	会津の仏像について	喜多方市山都公民館
令和3年12月12日(日)	筑波 匡介	災害	3.11 東日本大震災の教訓	放送大学会津学知会
令和4年1月29日(土)	猪瀬 弘瑛	自然	相馬の地質と古生物	相馬郷土研究会
令和4年3月30日(水)	筑波 匡介 相田 優	災害 自然	特集展「そなえの芽」「貝殻パラダイス」解説会	昭和村公民館

エ 未就学児連携事業

前年度の試行の検証を踏まえて、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で「会津慈光こども園」「会津慈光第二こども園」の園児たちに延べ7回実施した。

オ 子育て世代対応事業

「博物館でもよみかせ」「親子で探検！博物館のウラ側」「こどもミニミニ博物館」を実施したほか、読み聞かせボランティア団体として連携している会津大学短期大学部幼児教育学科の先生・学生と打合せを重ね、感染拡大防止がとれる内容を考案しワークショップを実施した。

カ 動画の制作と配信

前年度から引き続き、自宅でも楽しみながら学べる機会を提供しようというねらいのもと動画の制作と配信を行った。令和3年度は35本の動画を公開した。

(4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して当館開催事業の周知、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(エ) 令和3年度会員数

個人会員：122 家族会員：32 高校生会員：0
賛助会員：5 合計：159

イ 令和3年度事業概要

(ア) 講演会の開催

2回の講演会を開催した。内容と日時は「6-1(1)-(ウ)友の会事業」を参照。

(イ) 研修旅行

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第124号・第125号・第126号を発行し会員に配布した。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像を研究し旅する会の4サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立。会員数35名。令和3年度はミニ成果展のほか学習会などを行った。

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20~25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは4つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。通常月1回の活動計画であるが、前年度に引き続き令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同会の判断もあり4月・7月・1月の3回の開催にとどまった。

(ウ) 考古学倶楽部

考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、研修会や遺跡の見学会、考古学関連の展覧会の見学などの事業をとおして、会員相互の親睦を図るとともに、博物館事業にも協力することを目的に、令和3年4月に発足した。

(エ) 仏像を研究し旅する会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和3年度から活動を開始。発足時の会員は11名。本年度は会の体制作りや学習の進め方について、各会員が興味関心を抱いているテーマを反映させながら議論を進めた。また、当館学芸員から基本的な仏像の見方についてレクチャーを受けるとともに、自主学習の成果発表や、実際に寺院を訪れての仏像見学等を行った。

7 文化財・自然資料レスキュー

(1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和3年度には次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(当館は副代表・幹事・事務局)に参画して活動した。今年度は会議1回(令和3年11月22日)に出席した。

イ 被災地域の資料への対応

当館が新規に関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

(2) その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。災害時には市町村からの救援応援要請が出され、相互応援協定による支援・応援が実施されることになった。8月6日には「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」及び「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」連絡会議がオンラインで開催された。

8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

(1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。今年度は民俗1名、考古1名、歴史1名、自然1名、美術1名、災害2名の計7名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動、特集展の実施を行った。

(2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産に関わる今までの活動の経緯や、資料の来歴などを取りまとめるとともに未整理資料の整理を進めた。写真撮影を行い、中性紙封筒へ納めるなどした。

前年度末より引き続き、コロナ関連資料の収集を続けている。震災遺産類として東日本大震災との比較資料と位置づけ今後も継続する予定としている。収集した資料には博物館に届いた展示会の中止案内などの便りや、学芸員個人の生活の中で使用したマスクや、消毒用アルコール、アマビエ関係のものなどがある。

(3) 他団体・他機関との連携・協力

東日本大震災原子力災害伝承館、南相馬市博物館、磐梯山噴火記念館といった運営主体が異なるミュージアムと連携し震災遺産に関する勉強会を実施した。

また、特集展に関連する講座の実施にあたっては、会津教育事務所から助言等を頂き、学校での授業展開についても意見交換することができた。会津自然の家とは、社会教育課が所管するふくしまキッズパワーアップ事業等で防災教育を通じた協働体制を取ることができた。

例年協力体制をとってきた筑波大学との海外視察は、次年度以降へ延期となった。

(4) 普及事業

ゲストティーチャー13回、講師派遣9回と前年度よりさらに申し込みが増加した。ふくしまキッズパワーアップ事

業の実施によるところもあるが、地域社会のニーズとマッチしたものと考えている。また今年度の特集展は特に、育みたい児童・生徒の姿を示しながら学校の授業で使える内容の提案を行った。関連したイベントでも急速オンライン開催としたが、学校関係者を中心として、授業で使える内容としたワークショップを実施した。

会津自然の家と連携した取り組みでは、防災教育の必要性を伝えるシンポジウムの企画など協働することができた。大学からの要請もあり、福島県立医科大学、福島大学、東北大学、龍谷大学などで、震災遺産の伝承について共に考える講座を行った。

9 ライフミュージアムネットワーク

(1) 事業趣旨

ICOM京都大会で提案された「過去と未来についての批判的な対話のための民主化を促す包摂的で様々な声に耳を傾ける空間（ポリフォニックスペース）」を各地に創出するための試みとして、ライフミュージアムネットワーク実行委員会がこれまで培ってきたネットワークを基盤として、ポリフォニックミュージアムを起ち上げた。

令和3年度は各地域固有の歴史文化の再認識・再発見と、そこから立ち上がる課題への向き合い方の考察、その先にある未来像の創出を通して、ミュージアム的な場を多様に展開することにより、持続可能な地域社会への貢献を目指した。

(2) 組織

ア 主催 ライフミュージアムネットワーク実行委員会

イ 構成団体

只見町ブナセンター、はじまりの美術館、一般社団法人未来の準備室、東北芸術工科大学美術館大学センター、NPO法人アーツセンターあきた、福島県立博物館

ウ 委員長 鈴木 晶（福島県立博物館長）

エ 事務局 福島県立博物館

(3) 実施期間

ア 実施期間

令和3年4月1日(木)～令和4年3月31日(木)

イ プロジェクト活動期間

令和3年5月13日(木)～令和4年3月31日(木)

(4) 助成

文化庁令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

(5) 事業内容

ワークショップ、ラウンドテーブルを実施し、記録集（『ポリフォニックミュージアム活動記録集』、『福島 白河バージョン まち歩きフォトスゴログノート』、『海幸山幸の道』記録紙、『ヤベアベ学級との12月』、『スペース・トアル 虹色の子どもたち』）を作成した。

10 三の丸からプロジェクト

(1) 事業趣旨

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画の実現のため、令和2年度から5ケ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

(2) 組織

ア 申請者 福島県（福島県立博物館）

イ 共同申請者

会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

(3) 助成

令和3年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

(4) 事業内容

ア 文化資源磨き上げ事業

会津の周遊に関するストーリーについて、館内チームを中心に原案を作成した。その原案をもとに、共同申請者の一般財団法人会津若松観光ビューローと協議を重ねた。これと並行しながら、城郭・建築・観光等を専門とする有識者3名に依頼して、助言を受けて内容の充実を図った。さらに文化庁文化観光コーチングチームとの会議を通じて、3エリア周遊のキーコンセプトとして「つながぐ」というテーマを設定した。また、「陸奥国会津城絵図」（当館蔵 県重文）の調査（精査）及び業者委託による撮影・デジタル化を行った。そのほか周遊の核となる若松城跡のドローン空撮、周遊ポイント（冬季の雪景色）や文化資源及び製作工程等に関する撮影を行った。

イ 展示強化事業

「若松城跡」、「会津若松市街地」、「奥会津」の3エリアに関わる質の高い美術工芸品を展示し、該当展示資料（美術工芸品）を周遊に紐づけた展示解説を作成した。また、3エリア周遊への紐づけへの明確な理解を促すため、展示会場となる常設展部門展示室「歴史・美術」で使用する展示具、展示台を新たに導入した。

ウ 体験型プログラム提供事業

武家文化や会津のものづくりを体験し、その魅力が堪能できる6つのプログラムを実施した。居合の実演、会津木綿を使用した制作体験、またたび細工の制作体験などである。

エ 若松城下まちなか連携事業

「会津若松市街地」周遊を促進するため、会津若松市街地に点在する商工文化を伝える歴史的建造物で行う連携展示及び連携イベントを開催した。また、令和4年度

に開催予定の連携展示を素材にした周遊促進のためのパンフレットを作成した。

オ 多言語化事業

館内利用案内及び常設展示室の大テーマ解説・中テーマ解説の英語・中国語（簡体字・繁体字）の多言語化を実施した。また、体験型プログラムの提供を通して周遊を促す事業の趣旨・内容の理解につながる多言語パンフレットの整備として、体験型プログラムの解説を多言語化した。

カ 利便性向上事業

常設展総合展示室のWi-Fi整備とキャッシュレス化を行った。また、多様な来館者に対応した観覧の利便性向上に向け、視覚に障がいを持つ来館者が展示を楽しめる環境整備を行った。

キ 周遊促進事業

福島県立博物館のレストランを会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができる空間にするためのトータルデザインを行った。また、会津の「ものづくり」と「食文化」を紹介・体験することができるマルシェを秋に開催した。

ク 国内外プロモーション事業

共同申請者と三の丸からプロジェクトを通じて、会津の文化資源を国内外に発信するためのプロモーションについての協議を行い、併せて、令和3年度事業における実施状況を踏まえて、日本政府観光局（JNTO）より派遣いただいた同局理事に、プロモーション事業についての指導・助言を頂いた。

ケ 3エリア周遊につながるゲートウェイ機能のための展示室・無料空間整備

博物館内に展示機能強化に関する推進チームを設置し、定期的なミーティングや現地リサーチなどを行い、周遊ストーリーのゲートウェイ機能を果たす展示コンセプト・展示空間のあり方・展示手法及び展示資料の検討を行い、文化庁文化観光コーチングチームとの意見交換を踏まえながら展示整備案を作成した。

また、常設展部門展示室「歴史・美術」の展示ケースの機能を強化する展示環境整備を行った。併せて、親子連れや未就学児などの利活用環境整備の一環となるよう、奥会津のものづくり要素を取り入れたベビーケアルームを製作し配備した。

第14節 福島県自然の家

1 概要

(1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」（以下「自然の家」という。）を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度まで「福島県郡山自然の家」について、「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

令和2年度に開催した指定管理者選定検討会において令和3年度から令和5年度まで「福島県会津自然の家」について、「アメニティグループ」に指定管理することとなる。

(2) 所在地

ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46

〒963-0213 TEL 024-957-2111

FAX 024-957-2112

URL <https://koriyama-nc.fcs.ed.jp/>

イ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1

〒969-6504 TEL 0242-83-2480

FAX 0242-83-2481

URL <https://www.aizu-shizen.jp/>

ウ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53

〒979-0335 TEL 0246-32-7700

FAX 0246-32-7730

URL <https://iwaki-nc.fcs.ed.jp/>

2 教育目標及び基本的視点

(1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。

イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。

ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

(2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。

イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。

ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。

エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。

オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

3 新型コロナウイルスの影響

自然の家の令和3年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度から引き続き、利用定数、利用団体数、利用日数（宿泊日数）の制限など、それぞれの地域の状況に合わせ、あるいはまん延防止等重点措置や感染拡大防止重点対策などに応じて、制限内容を変更するとともに、企画事業の延期や中止などの措置も取りながら運営を行った。

このような中でも、3施設とも、大きく落ち込んだ前年度の利用者や利用団体数を上回る利用があった。

第15節 福島県郡山自然の家

1 概要

(1) 沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、令和3年度には延べ利用者数が178万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山中央スマートインターから車で約6分、郡山南インターより約8分という交通の便に恵まれ、豊かな自然環境に囲まれた都市近郊型の自然の家として、心身共に健全で心豊かな青少年を育成することを目的とした社会教育施設である。

平成31年4月1日より学校法人国際総合学園が指定管理者となり管理運営を行っている。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、社会人、家族など利用者層が多様多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開している。

また、生涯学習の拠点として県民に親しまれる施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、年代や性別を問わず利用しやすい施設とすべく対応を進めている。

また、園児から高齢者まで幅広い年齢層の方々に利用していただけるよう、多種多様な企画事業を展開するとともに特色あるプログラムの開発に努めてきた。

東日本大震災以降は、放射線量が比較的高い場所の除染を実施し放射線量の低減に取り組むとともに、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するなど情報提供に努めてきた。

年間の利用状況については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休所や企画事業の中止及び利用人数を制限した影響で、利用団体数214団体（前年比11団体増）、延べ利用者数8,870人（前年比3,846人増）となった。

(2) 職員組織

職名	人員
所長	1
指導部長	1
事務局長	1
指導部主任	1
指導員	2
体験指導員	3
事務員	1
運転手	1
計	11

(3) 令和3年度重点目標と成果

「SDGsを念頭に社会教育施設として質の高い活動を提供するとともに、LGBTQなど性の多様性を尊重し互いの価値観を共有できる魅力あふれる自然の家。」を実現すべく取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるよう、学校利用・社会教育団体利用に際しては、利用団体の指導者との緊密な連携に努めた。学校利用については、4月に上期利用団体と下期利用団体の2回に分け「学校利用指導者研修会」を実施した。その際、特に新型コロナウイルスへの対応について詳細に説明するとともに、安全安心な利用を進めるための本所の取り組みについて情報提供に努めた。活動プログラムの作成に際しては、参加者が密にならないように配慮した。

(イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にししながら、新型コロナウイルス対応に万全を期すよう事前の施設見学を実施するとともに活動計画作成を支援した。

(ウ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、コロナ禍にあっても安心安全な対応が図れるよう努めた。

イ 魅力ある企画事業の運営

(ア) コロナ禍にあっても季節感を生かした魅力ある事業を企画立案するとともに参加人数を見直し、密にならないよう注意しながら地域や関係機関との連携に努めた。

(イ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、施設利用者の満足度を高める運営に努めた。

ウ 広報の充実と利用促進

(ア) ホームページやインスタグラムなど様々な広報機会を利用し、本所における新型コロナウイルス対策に関する情報提供に努めた。また、コロナ禍にあっても新しい生活スタイルに対応した事業周知の在り方を模索する中で、在籍する園や学校をとおして園児・児童・生徒に直接チラシを配布することにより各家庭に、各種企画事業について情報提供を行った。

また、サザッピー会員に対しては、事業に関する案内を電子メールで直接情報提供を行った。

(イ) 新型コロナウイルスに関する対応や企画事業案内及び事業の実施状況等をホームページに掲載するなど、タイムリーな情報提供に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供に努めた。

(ウ) 県内5つの自然の家が広報機会を共有するという目的の下、各所で作成するチラシ等に他所の情報を掲載するコーナーを設け、県民に対し広く情報提供に努めた。

(エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザッピークラブ」とした。会員名簿の整理を行うとともに新規会員獲得に向け、様々な機会を利用して広報・勧誘に努めた。

エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という前提に立ち、所員の安全意識の徹底を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について働きかけを行った。また、新型コロナウイルスに関する対応マニュアルについて、随時見直しを行うとともに対策の徹底を図った。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検の徹底。
- ・3密回避と換気及びマスクの着用、手洗いの徹底。
- ・特に食堂利用時の感染防止のため、アクリルボードを設置し、黙食の徹底を図った。また、食物アレルギー対応のため、利用団体との情報共有及び給食業務委託業者との連携を進めた。
- ・スズメバチ等害虫対策として、捕虫装置の設置と点検を実施した。
- ・松食い虫被害による倒木防止のため、郡山市森林組合との連携による計画的な伐採と日常の安全点検を実施した。

(イ) 防災に関しては、国際医療看護福祉大学校及び郡山消防署の協力の下、給食・警備・清掃等の委託業務担当者の参加協力を得て、消火訓練や避難訓練・救急救命訓練を実施した。毎年定期的に実施することにより、関係者のスキルアップが図られ、コロナ禍であったが3密を回避しながら実効性のある訓練を実施することができた。実際に消火設備を用いて各種訓練を実施することにより、運用上の課題が明確となり対策を講じることができた。さらに、安全な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大きいため相互の信頼関係を日々醸成するべく情報の共有・伝達に努めた。

オ 施設・設備の整備及び消毒

(ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース整備を行い目の高さにある木の枝を除伐したり、コースロープを設置し、安全・安心に利用できるよう対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検に際して、「目視、触診、打音、振動、負荷、作動」により器具の状態を確認するとともに、随時、必要

な補修及び整備を行った。

(イ) 館内については、トイレはもとより使用した物品について消毒の徹底を図った。また、管理簿を場所ごとに準備し、消毒の有無について所員が情報を共有するとともに責任の所在が明らかとなるよう体制を整え対応した。また、所バスについても同様の消毒対応を実施した。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

(2) 宿泊定員

ア 本館 172名 (15部屋)

イ ロッジ 126名 (9棟)

ウ テント 120名 (20張)

(3) 敷地面積

237,587.59㎡

(4) 建物面積

延床面積 3,792.12㎡

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

(5) 設備備品等

ア 野外活動設備

(みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場24的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場4か所)

イ その他

(野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナッグゴルフ、スラックライン、ポッチャ、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビほか)

3 利用状況

(1) 令和3年度利用者数

延べ利用者数 8,870人

内訳 学校教育団体 125団体 4,949人

社会教育団体 41団体 871人

企画事業 48団体 3,050人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会

(ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活動の実際について研修し、指導者としての資質を高める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 第一回 令和3年4月14日(水)

第二回 令和3年4月15日(木)

参加者数 第一回 19名、第二回 20名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・活動プログラム実技研修

イ ボランティア育成講座

(ア) 目的

ボランティアに関する基礎知識、技能習得のためにプログラム実技研修会を実施し、ボランティアの育成に努めた。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年7月17日(土)
対象 県内の高校生以上の学生
参加者数 27名

(ウ) 研修内容

- ・ボランティア活動の意義
- ・安全、救急講習
- ・活動プログラム実技研修

(2) 利用拡大事業

ア サクラ・カタクリ週間

(ア) 目的

カタクリの群生、桜を觀賞し、春の自然を満喫する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年4月1日(木)～30日(金)
対象 一般
参加者数 327名

(ウ) 活動内容

本所の一部を開放し、春の植物を觀賞した。

イ さくらウォーク

(ア) 目的

春の三穂田路の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年4月10日(土)
対象 県内の小学生とその家族
参加者数 35名(ほかボランティア3名)

(ウ) 活動内容

本所を出発し笹原川千本桜まで約5km・10kmに分かれて散策をした。

ウ オープニングセレモニー

(ア) 目的

令和3年度のオープンに合わせ、アスレチックと総合活動館を地元小学生に開放し、使い始めを行う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年4月13日(火)
対象 郡山市立多田野小学校(堀口分校舎)
4、5年生と教員
参加者数 35名

(ウ) 活動内容

児童代表あいさつやツタを用いたテープカットなどのセレモニーを行い、アスレチックを楽しんだ。

エ 親子でチャレンジ!

(未来キッズ生き生き事業と併催)

(ア) 目的

家族や親子で野外活動に挑戦し、体力の増進を図るとともに、家族間の絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年6月13日(日)
対象 県内の小学生とその家族
参加者数 134名(ほかボランティア4名)

(ウ) 活動内容

家族ごとに分かれフィールド活動、アーチェリー、アスレチック、フリスビーゴルフを行った。

オ 春のオープンデー

(未来キッズ生き生き事業と併催)

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年7月4日(日)
対象 県内の小学生とその家族
参加者数 210名(ほかボランティア32名)

(ウ) 活動内容

アーチェリー、フィールド活動、アスレチック、森の標本箱、学校法人国際総合学園各大学の仕事体験ブースなどを提供した。

カ 夢冒険キャンプ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

キ 親子で満喫テント泊

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ク 第19回郡山自然の家オープンデー

(未来キッズ生き生き事業と併催)

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年10月3日(日)
対象 県内の小学生とその家族
参加者数 200名(ほかボランティア33名)

(ウ) 活動内容

アーチェリー、フィールド活動、アスレチック、森の標本箱、学校法人国際総合学園各大学の仕事体験ブースなどを提供した。

ケ 手ぶらで、いも煮会

(ア) 目的

野外炊飯等をとおして食についての意識を高め、家族の親睦を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年10月16日(土)・17日(日)

- 対象 県内の小学生とその家族
参加者数 50名
- (ウ) 活動内容
家族ごとにいも煮会を楽しんだ。
- コ 秋の田園ウオーク
- (ア) 目的
秋の逢瀬町の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和3年10月23日(土)
対象 県内の小学生とその家族
参加者数 35名
- (ウ) 活動内容
本所を出発し逢瀬町周辺の田園地帯を散策しながら本所に戻る約12kmのロングコースと逢瀬公園でゴールする約8kmのスタンダードコースに分かれ、家族で楽しんだ。
- サ ストレッチ&こども自然散策体験
- (ア) 目的
ストレッチ体験を通し、身体と心をリラックスし自分と向き合う機会とする。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和3年10月24日(日)
対象 ストレッチ体験 高校生以上
自然散策体験 小学生以上
参加者数 28名(ほか講師1名)
- (ウ) 活動内容
大人向けのストレッチ教室と子ども向けの自然散策体験活動に分かれ、それぞれの時間を有意義に楽しんだ。
- シ 一切経登山を楽しもう
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ス 親子五色沼ハイキング
- (ア) 目的
家族や親子で秋の裏磐梯をトレッキングし、身近な自然に親しむ。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和3年11月14日(日)
対象 小学生を含む家族・グループ
参加者数 20名
- (ウ) 活動内容
参加者は所員による自然ガイドを聞きながら、約3.6kmの裏磐梯五色沼自然探勝路散策を楽しんだ。
- セ 親子でハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー
- (ア) 目的
ミニ門松作りをとおして、伝統文化を体験する機会とするとともに、家族の親睦を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和3年12月12日(日)
対象 幼児から小学生とその家族
参加者数 13名(ほか講師1名)
- (ウ) 活動内容
家族でミニ門松作りを体験した。
- ソ 名人から学ぶけん玉教室
- (ア) 目的
親子でけん玉検定にチャレンジし、交流を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和3年12月26日(日)
対象 幼児から小学生とその家族
参加者数 89名(ほか講師5名)
- (ウ) 活動内容
公益社団法人日本けん玉協会東東北ブロック講師の協力のもと、けん玉の基礎から上級技までコツを学びながら、家族で楽しんだ。
- タ 親子スケート教室
- (ア) 目的
スケートについて、安全に滑る知識と技能を身につけ、家族や親子で楽しく活動する。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和4年1月9日(日)
対象 幼児から小学生を含む家族
参加者数 23名(ほか講師1名)
- (ウ) 活動内容
磐梯熱海アイスアリーナで講師からスケートの基本的な動きの指導を受け、自由滑走を楽しんだ。
- チ バレンタインお菓子作り
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ツ 冬のクラフト祭り
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- テ わくわく！ファミリー冬のつどい
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ト サザピーククラブ感謝デー
- (ア) 目的
本所サザピーククラブ限定の企画を開催することでクラブ会員同士の親睦を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和4年3月13日(日)
対象 サザピーククラブ会員
参加者数 30名
- (ウ) 活動内容
アーチェリーとインラインスケートを家族対抗で競い合い楽しんだ。
- ナ スコアオリエンテーリング記録にチャレンジ
- (ア) 目的
スコアオリエンテーリングの記録会を実施し、自然への親しみと健康増進を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和4年3月26日(土)
対象 一般(中学生以上)
参加者数 16名
- (ウ) 活動内容

活動プログラムであるスコアオリエンテーリングを大会形式で行った。

(3) 協力事業

ア 国立磐梯青少年交流の家いなわしろフェスティバル

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年6月6日(日)

対象 フェスティバル参加者

参加者数 145名

(ウ) 活動内容

缶バッジづくりの機会を提供した。

イ 福島ファイヤーボンズホームゲーム来店

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年11月20日(土) 参加者数 46名

令和3年11月21日(日) 参加者数 91名

令和3年11月27日(土) 参加者数 61名

令和3年11月28日(日) 参加者数 85名

令和3年12月11日(土) 参加者数 53名

令和3年12月12日(日) 参加者数 103名

令和4年1月8日(土) 参加者数 70名

令和4年1月9日(日) 参加者数 92名

対象 ゲーム観戦者

(ウ) 活動内容

缶バッジづくりの機会を提供した。

(4) 年間継続事業

ア みどりの広場アスレチック&活動館開放します！

(ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和3年4月24日(土) 参加者数 7名

令和3年5月15日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和3年5月22日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和3年11月6日(土) 参加者数 50名

令和3年11月27日(土) 参加者数 49名

令和3年12月4日(土) 参加者数 22名

令和3年12月18日(土) 参加者数 22名

令和4年1月22日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和4年2月19日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和4年3月19日(土) 参加者数 13名

対象 県中地区の特別支援学校、学級の幼児及び小学生とその家族

b 期日 令和3年4月25日(日) 参加者数 44名

令和3年5月16日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和3年5月23日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和3年11月7日(日) 参加者数 99名

令和3年11月28日(日) 参加者数 80名

令和3年12月5日(日) 参加者数 99名

令和3年12月19日(日) 参加者数 97名

令和4年1月23日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和4年2月20日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和4年3月20日(日) 参加者数 55名

対象 県中地区の幼児及び小学生とその家族

(ウ) 活動内容

フィールドアドベンチャー、みどりの広場アスレチック、総合活動館、体育館開放

イ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

家族や親子に体を動かす機会を提供するため、自然の家のプログラムを体験してもらい、心身の健康や体力向上へつなげていく。

(イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和3年6月20日(日)

対象 県北地区の小学生を含む家族

参加者数 111名

b 期日 令和3年7月11日(日)

対象 県中、県南地区の小学生を含む家族

参加者数 100名(ほかボランティア2名)

c 期日 令和3年7月4日(日)

対象 中通り全地区の小学生を含む家族

参加者数 210名

d 期日 令和3年7月18日(日)

対象 相双地区の小学生を含む家族

参加者数 42名

(ウ) 活動内容

本所の様々なプログラムを家族で楽しんだ。

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年12月1日(水)～

令和4年3月18日(金) 平日9時～16時

対象 県中地区内の幼稚園・保育園

参加者数 6団体 195名

(ウ) 活動内容

体育館、活動館アスレチックを利用した運動と積雪時にはそり滑りを行った。

エ こころのケア事業

(ア) 目的

様々な不安を抱え登校が困難な児童生徒を対象に豊かな自然の中での活動を通して自己肯定感を高める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年6月4日(金) 参加者 11名
令和3年10月22日(金) 参加者 20名
令和3年11月20日(土) 参加者 16名
令和3年12月12日(日) 参加者 34名

対象 集団活動や登校が困難な児童生徒

(ウ) 活動内容

保護者や教員と連携し、児童生徒の状況や負担に配慮しながら自然体験活動や交流活動を実施した。

(イ) 施設開放等、地域参加型の「企画事業」の開催

里山開放デーや会津坂下町感謝デーなどの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。

(ウ) 幅広い年齢層に対応した出前講座の推進

学校、公民館など教育施設への出前講座を行い、子どもから高齢者まで楽しめる講座を提供することができた。

(エ) 魅力的な「企画事業」や「研修プログラム」の開発

前年踏襲にとらわれず、企画事業において子どもだけでなく大人も対象とした様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた。

イ 生涯学習施設の拠点としてプログラムの提供や情報発信を行う。

(ア) 各関係機関との連携強化（事業のタイアップ）

商業施設や広告会社等、様々な関係機関と連携しながら、新聞やラジオ、フリーペーパー等を利用し、事業の広報活動に努めた。

(イ) ホームページやフェイスブックを活用しての効果的な情報の発信

タイムリーな話題を、時期を逃さずホームページにアップできるよう、担当が中心となり更新に努めた。新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを活用し、活動の様子や企画事業の案内に努めた。

(ウ) 地域や各団体への新規プログラムの提供

研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるようにした。

(エ) ボランティアを育成する研修の開催と活動機会の提供

ボランティアのつどいを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。

ウ 安全・安心で好感度の高い活動や環境を提供する。

(ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇

団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 感染症（新型コロナウイルス、ノロウイルスなど）への対策や予防徹底

利用者の事前の健康チェック、来所時、活動時の検温と消毒、食堂の椅子の配置、消毒液の設置などあらゆる対策に努めた。

(ウ) 日常（事前、事中、事後）及び定期的安全・確認の徹底

労務員も含めた全所員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

(エ) 施設内の「ごみゼロ」と迅速な施設の整備・修繕

所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の環境づくりに努めることができた。

エ 施設・財産を守る。

(ア) 適切な会計処理とチェック体制の充実

会計事務にかかる研修や、服務倫理委員会を定期的に開催し、会計事務の適正化を図った。

第16節 福島県会津自然の家

1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和3年度末で41年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和3年度の利用者数は、14,871人で、前年度を1,200人程度上回った。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、企画事業の工夫や出前講座を積極的に実施することで、利用促進に努めることができた。

また、4つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利用しやすい魅力的な施設を目指して運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

(1) 職員組織

職名	人員
所長	1
副所長	2
総務長	1
総務事務員	1
指導員（常勤）	4
指導員（非常勤）	2
嘱託運転手	1
計	12

(2) 令和3年度重点目標と成果

利用者の満足度90%以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

ア 利用者が満足感を持つことのできる活動を提供する。

(ア) 利用者のニーズに応じた「研修プログラム」の提供

活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

(イ) 事業等の整備と保管

- a 研修プログラムや企画事業の電子データ化と指導手順のマニュアル化
研修プログラム、企画事業の電子データ化を行い、写真や動画ですぐに確認できるように整備した。
- b 活動や施設設備等のデータの累積とその有効活用
活動プログラムの説明や注意事項、放送設備等の使用方法など動画データに保存し、活用できた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

(2) 宿泊定員

- ア 本館 25室 290名(うち1室障がい者用)
- イ ロッジ 10棟 150名
- ウ テント 10張 60名

(3) 敷地面積

249,848.98㎡

(4) 建物面積

- ア 延床面積 5,893.8㎡
 - (ア) 管理研修棟(鉄筋造2階建)
 - (イ) 宿泊棟(鉄筋造2階建)
 - (ウ) プレイホール(鉄筋造)
 - (エ) アセンブリホール(鉄筋造)
 - (オ) 機械棟(鉄筋造3階建)
 - (カ) ロッジ(木造平屋建)
 - (キ) 野外活動管理センター(鉄筋造)
 - (ク) 炊飯場(鉄筋造)
 - (ケ) 薪置場(コンクリートブロック造)
 - (コ) 車庫(鉄筋造)
 - (サ) 野外便所(鉄筋造)

(5) 運動広場面積

8,500㎡

(6) 設備備品等

- ア フィールドアスレチック
- イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
- ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
- エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
- オ ピアノ、オルガン
- カ 伝承遊びセット
- キ クラフト用具
- ク 各種オリエンテーリング用具
- ケ アルペンスキー
- コ 歩くスキー(クロスカンリースキー)
- サ そり、スノーチューブ
- シ スノーシュー
- ス 営火場(4か所)
- セ 諸活動コース
- ソ その他

3 利用状況

(1) 令和3年度の利用団体数

延べ利用者数	14,871人
内訳	学校教育団体 205団体 10,373人
	社会教育団体 85団体 2,230人
	ファミリー 54団体 233人
	企画事業 30団体 2,035人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

- a 自然の家設立の趣旨・教育目標・方針・利用のねらい及び運営方法の理解を図る。
- b 児童・生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう、屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解し、効果的な活動計画が作成できるようにする。
- c 集団宿泊活動等が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和3年4月15日(木) 31名参加
第2回：令和3年4月20日(火) 33名参加
第3回：令和3年4月21日(水) 46名参加
- b 幼稚園、保育所及び小中学校の教員

(ウ) 研修内容

- a プログラム体験
- b プログラム調整会

イ ステップアップセミナー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ ボランティアのつどい

(ア) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種主催事業等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和3年5月9日(日) 14名参加
第2回：令和3年10月24日(日) 16名参加
- b 高校生、一般

(ウ) 研修内容

- a ボランティア講座
- b 本所プログラム研修

(2) 教育研究事業

ア 高寺山歴史勉強会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

イ 通学キャンプ

(ア) 目的

- a 自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- b 中学校進学前に、同じ中学校へ進学予定の他校の児童との交流を図ることにより、中学進学の不安を少しでも解消できるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年12月2日(木)～4日(土)
- b 会津坂下町立坂下南小学校・坂下東小学校の5～6年児童
- c 36名

(ウ) 活動内容

- a 室内ゲーム、ニュースポーツ
- b 学習会
- c クラフト体験

ウ 冬休み楽習宿

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

エ お正月飾りを作ろう

(ア) 目的

正月飾りをつくることで、日本の伝統文化を知る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年12月26日(日)
- b お正月飾り作りに興味のある方とその家族
- c 54名

(ウ) 活動内容

お正月飾り作り

(3) 利用促進事業

ア 第16回高寺山山開き(会津坂下町との共催)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

イ 春のオープンデー(未来キッズ生き生き事業との併催)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ 夏の川遊びを楽しもう!

(ア) 目的

- a 暑い夏に川遊びを行い、自然に親しむとともに、地域の自然についての理解を深める。
- b 夏の暑さのもとでの様々な水辺の活動を通して、大自然の恵みや季節感を楽しむ豊かな心を育むと共に、水への安全な関わり方について身に付けさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年8月1日(日) 86名参加
(ほかボランティア21名)
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a カヌー体験・川流れ体験
- b 水辺の生き物探し
- c 河原で水遊び

エ あったかふれあいまつり

(未来キッズ生き生き事業との併催)

(ア) 目的

- a 野外活動プログラムや各種体験などの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。
- b 県民に施設及び周辺環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深め、今後の集客につなげる。
- c 各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年10月10日(日) 527名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a 協力外部団体(木練がっこう、ツリーイング、秘密基地づくり、水辺の生き物観察、読み聞かせ、会津の民話)
- b 本所プログラム(野外クッキング、森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、昆虫OL、スタンプラリー)

オ 東松ウォーキング大会2021

(ア) 目的

東松峠ウォーキング大会に地区外からの参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年10月16日(土) 110名参加
- b 一般

カ もっくんオータムフェア

(ア) 目的

- a 会津の秋のすばらしさを感じるとともに、自然への理解を深める。
- b 会津自然の家周辺のコース内で紅葉を主とした自然観察をしながら歩くことにより、自然のすばらしさを味わうとともに参加者相互の交流を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和3年11月6日(土) 24名参加(ほか講師4名)
- b 一般

(ウ) 活動内容

- a 自然観察
- b 木工クラフト

キ 三たてを味わう 新そばにチャレンジ

(ア) 目的

会津の代表的な郷土料理であるそばを打ち、新そばの豊かな味わいを堪能するとともに、郷土の食文化のすばらしさを知る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回: 令和3年11月20日(土) 41名参加
第2回: 令和3年11月21日(日) 40名参加
- b 県内の小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

そば打ち体験と試食

ク 手作り森のクリスマス

(ア) 目的

- a クリスマス用のクラフト作りや食事を味わうことを通して、家族間の交流を図る。
- b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、当所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和3年12月11日(土) 45名参加
第2回：令和3年12月12日(日) 47名参加
- b 県内の小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a クリスマスケーキデコレーション
- b クリスマスクラフト作成

ケ ウィンターフェスティバル

(ア) 目的

雪国ならではのスノーボード体験やそり・チューブ遊び、雪と親しむ活動等に触れることを通して、会津の冬の楽しさを感じさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年1月22日(土)～23日(日) 32名参加
(ほか講師10名、ボランティア8名)
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a スノーシュー体験、スノーチューブ体験
- b 雪灯ろう作り、キャンプファイヤー
- c スノーボード教室

コ クラフトキッズフェア

(ア) 目的

- a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト製作を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
- b クラフト製作の場を提供することにより、当所のプログラムについての理解を深める機会と利用機会の拡大を図るきっかけを作る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和4年3月6日(日) 144名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族

(ウ) 活動内容

- a 木目コースター
- b 木の実アート
- c プラ板クラフト
- d Ori kiri ori クラフト
- e ペットボトルクラフト
- f 特別企画 ノコリノカタチ ウマレルカタチ

(4) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的、対象

県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、ブレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の

家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

(イ) 名称、期日、参加者数

- a 春のオープンデー・・・・・・・・・・前
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- b 会津自然の家里山開放デー
令和3年7月18日(日) 324名参加
- c あったかふれあいまつり・・・・・・・・前
令和3年10月10日(日) 527名参加
- d そりすべり団体開放
令和4年1月7日(金)～2月20日(日) 553名参加
- e 雪遊びファミリーデー(ニュースポーツ開放デー)
令和4年2月6日(日) 99名参加

(ウ) 活動内容

- a アスレチック、カヌー、UF0ゴルフ、迷路
- b クラフト、語り部による昔話、オリエンテーリング、ボッチャ
- c そり遊び、スノーチューブ

第17節 福島県いわき海浜自然の家

1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校教育団体の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年4月1日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称)を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成23年度から同26年度にかけて、本館周辺及び野外施設の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。山林部については、一部で放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森を利用した活動プログラムの再開はできていないが、令和4年度に冒険の森3コースの一部で再整備工事が計画されており、令和3年度に調査・設計を実施している。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて平成25年度から順次再開し、平成30年度に四倉漁港でいかだ乗り、カヤック乗り、ボディボードを再開したことで、全てのプログラムを再開することができた。海浜に隣接した施設としての特性を生かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、相双地区やいわき地区の利

用団体からも好評を得ている。

令和3年度の受け入れについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度に引き続き利用定数を半数以下とし、利用日数も1泊2日までとした。また、団体の規模を考慮しながら1日あたりの利用受け入れは最大6団体まで、さらに、宿泊は3団体までとした。その上で、地域の感染状況に応じて宿泊利用の受け入れ停止や感染リスクの高い活動（野外炊飯）の禁止などの対応を行った。

これにより、学校教育団体の宿泊活動については、多くがキャンセルまたは10月から12月の期間に変更となったため、年間計画の開所日及び休所日を変更するなどして対応した。また、このことが社会教育団体の平日利用にも大きく影響することとなったが、新型コロナウイルスの感染者数が減少した時期にスポーツや音楽関係の大会が開催されるようになったことで、学校の部活動やスポーツ少年団の合宿による利用に回復傾向が認められた。

年間の利用状況については、新型コロナウイルス感染拡大の影響があったが、304団体（前年比23団体増）、延べ利用者数17,062人（前年比3,925人増）となった。

施設管理に関しては、新型コロナウイルス感染の影響で利用制限を行っていた時期に、設備の点検・修繕等を集中して実施し、利用環境の整備を図った。

(1) 令和3年度重点目標と成果

震災の影響で未だに自然体験活動が制限されており、さらに新型コロナウイルス感染症の影響で利用が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 青少年教育施設としての位置づけを明確にし、利用者への理解徹底を図るため、健全な青少年の育成を目的とした利用のあり方を検討しながら受け入れを実施した。学校教育団体へは、いわき市内の小・中学校長連絡協議会へ本所の取り組みなどを積極的に情報提供し、周知と利用促進に努めた。また、生涯学習施設としての役割に鑑み、いわき市内の教育文化施設及び社会教育施設と連携し、公民館への出前講座等で体験活動を提供するなど、社会教育団体への利用促進を図った。

(イ) 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な心身の育成を図るため、学校教育団体及び社会教育団体の指導者向けに活動計画立案や活動プログラム体験などを取り入れた研修会を実施している。しかし、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修会を中止したことから、書面や電話等により、研修目的に沿った活動の提案や目的達成のための助言を行うとともに、動画配信を利用して活動プログラムへの理解を図った。

(ウ) 利用団体へのオリエンテーション等を通して宿泊活動における生活指導を行い、共同生活の場における社

会的集団的なルールの理解と定着を図った。

(エ) 企画事業の充実を図るため、提供プログラムの教育的効果や自然体験を多く取り入れたプログラムの開発について、所員が意見を出し合いながら事業を進めた。令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者数を限定しての事前予約としたが、市内の市民団体と連携した様々なスポーツ活動や自然の素材を利用したクラフト体験を多く取り入れた。広報活動についても、指定管理者が管理受託する施設と連携し、効率的な広報に努めた。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 利用者の研修目的達成のため、団体の特性に合わせた活動プログラムの開発に取り組んだ。特に学校教育団体については、プログラムの教育的効果について再検討し、オリエンテーション等の内容の見直しを行った。また、利用が制限されている冒険の森のナイトハイクコースに代わり、多目的広場周辺に新たに整備したナイトハイクコースを活用した。

(イ) あらゆる年齢層に対応するため、幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発と内容の充実を努めた。令和3年度は、幅広い年齢層で活動できるニュースポーツについて検討し、令和4年度から導入する準備を進めた。

(ウ) アンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行った。プログラムについては自然の家に求められている体験活動について、既存の内容の見直しを随時行った。また、団体の自主性・主体性を尊重しながら、研修目的を達成できるよう、適切な支援方法について、所員研修を行いながら改善を進めた。

令和3年度は、東日本大震災以降に中断していた社会教育団体のボディボード活動について、アンケートでの要望が高かったことから、事前研修会への参加と引率者の配置を確認した上で再開した。

(エ) 誰もが安心して楽しく利用できる施設を目指し、活動前の施設の安全点検だけでなく、活動プログラムについても定期的に安全面での検証を行い、支援に取り入れた。特に海浜活動については、毎年シーズン前に所員研修で安全な支援方法の確認を行っている。さらに、新型コロナウイルス感染症についても感染拡大防止対策を徹底しながら活動を支援した。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 施設内外の安全点検を定期的実施し、事故の未然防止を徹底した。特にトリムランドは利用前に所員が点検を行うとともに、年1回の公園施設製品安全管理士による点検を実施し、安全管理に努めた。用具についても、利用前に消毒と不具合の有無についての確認を徹底した。

(イ) 学校教育団体及び社会教育団体への事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底を図っている。しかし、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修会を開催することができ

なかったため、「利用ガイド」等の事前配布で安全な活動を促した。さらに、受付やオリエンテーション、活動支援においても安全のための適切な助言や指導を行った。

- (ウ) 自然災害及び事故発生時の緊急事態等に対応するため、危機管理マニュアルにより緊急時の対応及び連絡体制を明確にすることで、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。マニュアルは毎年見直しを行っており、令和3年度は自然災害及び新型コロナウイルス感染症に関する項目を見直した。
 - (エ) 本所の危機管理体制と安全対策を周知するため、海浜活動時等の自然災害等での避難方法、新型コロナウイルス感染症に関する対策等についてのマニュアルを利用者に配布するとともに、受付時にも説明を行った。また、放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。
 - (オ) 利用者がより良い環境の中で安全に安心して活動できるよう、地域の消防署、交番とも連携して安全対策を徹底した。また、所外での活動に備えて2台のAEDを配置し、年一回の救急救命訓練を実施するなど、安全対策の充実に努めた。
 - (カ) 火災予防については、消防法に定められた防火設備の点検を実施するとともに、消防計画の作成、消防訓練の実施など、常に防火管理に努めた。
- エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。
- (ア) 利用者へのアンケート結果を参考に、プログラム内容や支援への意見・要望などを分析しながら業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援及び管理運営に努めた。
 - (イ) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会及び評議員会や、法人が管理受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、満足度の高い施設運営に努めた。
 - (ウ) 自然体験活動にふさわしい環境整備を心がけ、利用団体の活動に支障がないよう施設の維持保全に努めた。食事提供業務、施設等維持保全関連業務の再委託については、指名競争入札により経費の削減を図りながら、受託業者と連携して利用者へのサービス向上に努めた。
- オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。
- (ア) ボランティア養成講座を年4回開催し、ボランティアの意義について理解を深めるための講座及びグループワーク、自然体験活動支援に必要な知識と技術を習得する実技研修を実施した。ボランティア養成講座には、社会人だけでなく、いわき市内の高校生及び大学生が参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。規定の講座修了後には支援ボランティアとして企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

- (イ) 環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年1回行い、地域に根ざした施設づくりに努めた。
- (ウ) 地域の公民館及び教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、スポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供した。また、地域のまちづくり活動へ協力することで、各種団体との連携強化に努めた。

(2) 職員組織

職 名	人員
所長	1
次長	1
主任指導員	1
主査	1
副主任指導員	1
指導員	2
教育指導専門員	1
体験活動指導員	4
運転手	2
環境整備員	1
事務補助員	2
計	17

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

(2) 宿泊定員

- ア 本館定員 300名 (和室28室)
- イ ロッジ定員 160名 (10棟)
- ウ テント定員 100名 (25張)

(3) 敷地面積

350,171㎡

(4) 建物面積

- ア 延床面積 6,696.97㎡

(ア) 中心施設

本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)
体育館

(イ) 野外施設

管理棟、ロッジ、便所等

(5) 野外活動施設面積

- ア つどいの広場 7,000㎡
- イ 多目的広場 8,890㎡
- ウ 自然観察園 4,050㎡
- エ みんなの広場 4,700㎡

(6) 設備備品等

- ア 体育館
(バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面 (バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、

- ピアノ1台、キンボール ほか)
- イ 野営場
(野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか)
- ウ 野外活動設備
(フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場5か所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース ほか)
- エ 多目的広場
(ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか)
- オ その他
(視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、足けりバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか)

3 利用状況

(1) 令和3年度利用者数

延べ利用者数	17,062人
内訳	
学校教育団体	176団体 12,780人
社会教育団体	103団体 3,235人
ファミリー	3団体 67人
企画事業	22団体 980人

4 企画事業

(1) 研修会事業

- ア 学校教育団体指導者事前研修会
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
4月及び5月に全4回の開催予定であったが、活動計画については、資料を送付し、電話・書面等により調整を行った。また、動画配信により活動プログラムへの理解を図った。
- イ 社会教育団体指導者事前研修会（活動プログラム研修会）
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
5月に開催予定であったが、活動計画については、資料を送付し、電話・書面等により調整を行った。また、動画配信により活動プログラムへの理解を図った。
- ウ ボランティア養成講座
(ア) 目的
自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。
(イ) 期日、対象及び参加者数
 - ・期日 令和3年6月6日(日) 参加者数 12名
 - 令和3年7月11日(日) 参加者数 13名
 - 令和3年11月14日(日) 参加者数 8名
 - 令和3年12月19日(日) 参加者数 6名
 - 計 39名
 - ・対象 高校生、大学生、一般

- (ウ) 内容
実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度は高校生及び大学生の参加が減少したが、令和3年度は全体で10名増加した。

(2) 利用促進事業

- ア 遊ぼう！初夏の海で
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- イ 春のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）
(ア) 目的
施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに利用促進を図る。また、子どもたちが、ボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性や生きる力の育成を図る。
(イ) 期日、対象及び参加者数
 - ・期日 令和3年6月13日(日)
 - ・対象 一般
 - ・参加者数 142名(ほか講師8名、ボランティア16名)
- (ウ) 内容
5月16日(日)から延期し、定員200名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイク、スラックライン、トランポリンなどのスポーツ体験で身体を動かし、貝殻ストラップ作りのクラフト体験を楽しんだ。また、野外炊飯(海浜ピザ&パスタ)、海浜レストランなどで食事を楽しんだ。
- ウ ふれあいサマーキャンプ
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- エ スポーツフェスティバル（未来キッズ生き生き事業）
(ア) 目的
子どもから大人まで一緒に様々なスポーツを楽しみながら、体力向上や健康維持などへの意識向上を図る。
(イ) 期日、対象及び参加者数
 - ・期日 令和3年10月3日(日)
 - ・対象 一般
 - ・参加者数 97名(ほか講師7名、ボランティア7名)
- (ウ) 内容
定員100名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイク、スラックライン、フロアカーリング、ヨガ教室などを楽しみ、健康への意識を高めることができた。また、スタンプラリーで所内を巡ることで、本所への理解を深めることができた。
- オ 秋のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）
(ア) 目的
施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに利用促進を図る。また、子どもたちが、ボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性や生きる力の育成を図る。
(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和3年10月24日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 191名(ほか講師8名、ボランティア11名)

(ウ) 内容

定員200名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイク、スラックラインなどのスポーツ体験で身体を動かし、貝殻ストラップ、砂絵などのクラフト体験、竹馬などの昔遊び体験などを楽しんだ。また、野外炊飯(豚汁うどん)、海浜レストランなどで食事を楽しんだ。

カ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然のすばらしさや人とふれ合う喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和3年11月6日(土)～7日(日)
- ・対象 小学生(4～6年生)
- ・参加者数 15名

(ウ) 内容

1泊2日で、背戸岬廊ハイキング、野外炊飯(ハンバーガー、フライドさつま)、キャンプファイヤー、クラフト体験などを行い、自然体験や交流活動を通して参加者同士の親睦を深め、社会性や自立心を育んだ。また、野外炊飯の材料に自分たちで収穫したサツマイモを使用することで、食育への意識を高めることができた。

キ 親子のつどい

(ア) 目的

親子が一緒に季節にふさわしい体験活動をする中で、家族の絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和3年12月12日(日)
- ・対象 幼児から小学生とその家族
- ・参加者数 37名(ほかボランティア6名)

(ウ) 内容

親子が一緒に、季節にふさわしいクリスマスのリース作りなどのクラフト体験、館内を巡るオリエンテーリングなどを楽しんだ。クラフトの材料は、自然環境の豊かさを体感できるよう本所周辺で採集した自然の素材を用いた。

ク 冬を楽しもう！～冬のDAYキャンプ～

(ア) 目的

身体を動かすことが少ない時期に、気軽に実施できるデイキャンプを通して、家族の絆を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性を育む。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年1月16日(日)
- ・対象 幼児から小学生とその家族
- ・参加者数 8組(30名)

(ウ) 内容

1月9日に会津地方でのスキー教室を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日程と内

容を変更し、本所内で定員10組(40名程度)の予約制で実施。テント立て、薪割り、風船マット作りなどを体験し、木製表札作りの創作活動、お餅料理や焼きマシュマロ作りなどを親子で楽しんだ。

ケ クラフトのつどい

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

コ 森の音楽会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

本所のアスレチック施設等を利用して、身体を動かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和3年11月28日(日) 参加者数 179名
(ほか講師11名)
- 令和4年1月23日(日) 参加者数 94名
(ほか講師6名)

※令和4年2月27日(日)も開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・対象 幼児から小学生とその家族

(ウ) 内容

各回定員150名の事前予約制で実施。トリムランドで身体を動かし、マウンテンバイク、足けりバイク、ファミリーゴルフなどを楽しんだ。また、ロープ登り、凧あげなどの親子で一緒に活動できるプログラムを取り入れた。

(4) 連携事業

ア ウィンターフェスティバル 主催:会津自然の家

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加中止

イ 親子自然探訪教室 主催:いわき市アンモナイトセンター

(ア) 目的

親子でいわき市内の各所に出向き、様々な自然観察を行う。

(イ) 期間、対象及び参加者数

- ・期日 令和4年1月10日(月・祝)
- ・対象 小学生とその保護者
- ・参加者数 25名

(ウ) 内容

本所のつどいの広場で星空を観察し、冬の夜空について学んだ。いわき市内の教育文化施設と連携することで、参加者に本所の活動を広報することができた。

ウ 生涯学習フェスティバル 主催:いわき市生涯学習プラザ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

エ 出前講座(全2件)

(ア) 目的

本所の活動内容の紹介と学校教育団体及び社会教育団体等への利用促進を図るため、出前講座を行う。

(イ) 期間、対象及び参加者数

a 常磐公民館

- ・期日 令和3年12月18日(土)
- ・対象 公民館事業に参加する児童
- ・参加者数 31名

b 中央公民館

- ・期日 令和3年12月25日(土)
- ・対象 公民館事業に参加する児童
- ・参加者数 53名

(ウ) 内容

いわき市内の公民館で、クラフト体験の出前講座を実施した。